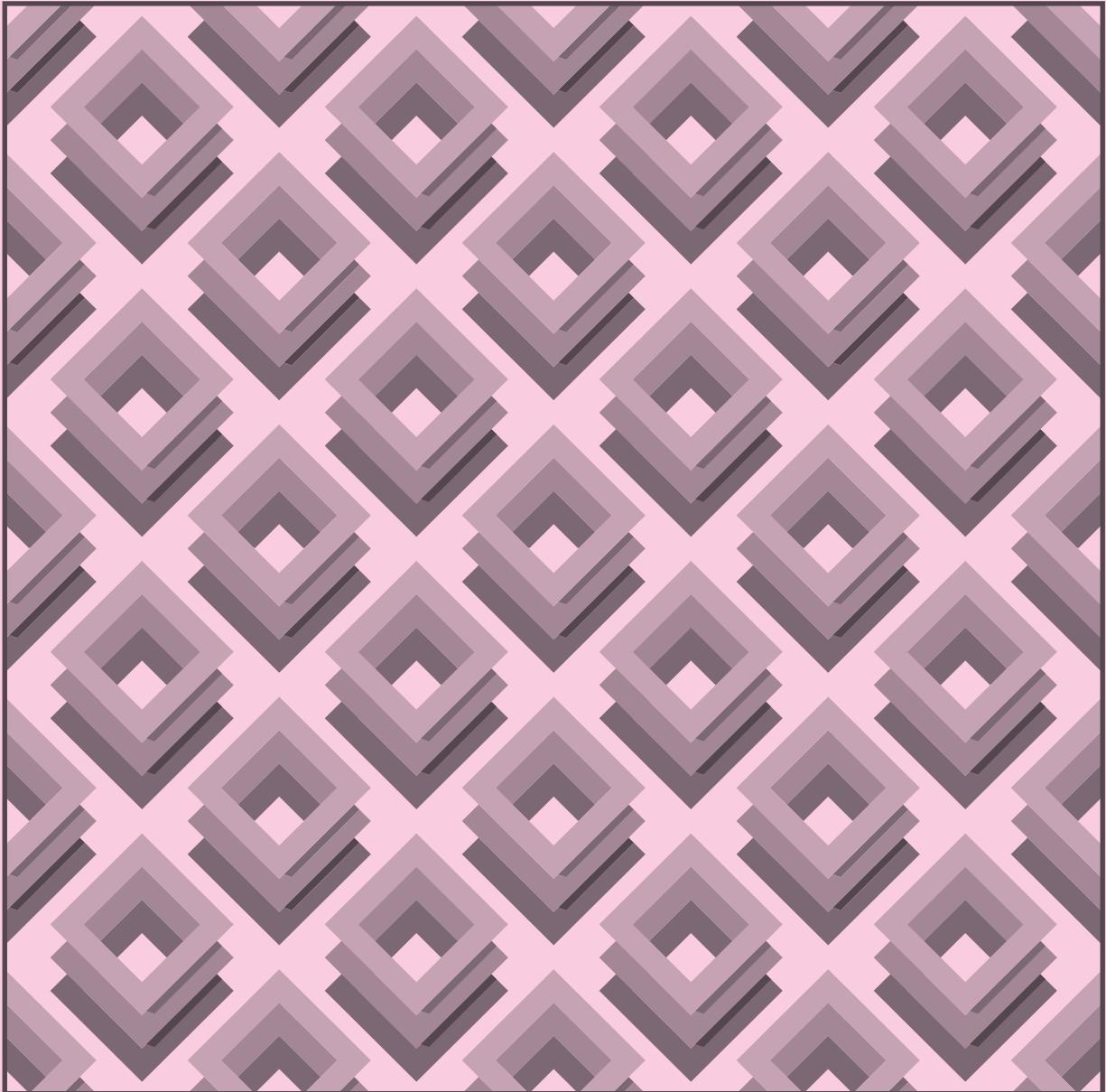

2015年度

シラバス

ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. ドイツ語学科授業科目表について

①シラバスページの検索方法

ページ両端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

科目は、学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

全：ドイツ語学科以外の全学部学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

環：国際関係経済学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

(1)	(2)	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
(3)	(4)	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
(5)	(6)	

(1)	(2)	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
(3)	(4)	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
(5)	(6)	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目もあります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

— 目 次 —

ドイツ語学科授業科目（2009年度以降入学者用）

外国語科目	-----	2
演習科目、概論・専門講義・テキスト研究科目	-----	3
交流文化論	-----	4
外国語学部共通科目	-----	5
担当者別シラバス	-----	7

ドイツ語学科授業科目(2009年度以降入学者用)

外国語科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	定員 レベル	ページ
総合ドイツ語Ⅰ(既修)	T. マイヤー・堤 那美子	春		1	1	全		7
総合ドイツ語Ⅱ(既修)	T. マイヤー・堤 那美子	秋		1	1	全		7
総合ドイツ語Ⅰ(未修)	各担当教員	春		1	1	全		8
総合ドイツ語Ⅱ(未修)	各担当教員	秋		1	1	全		8
総合ドイツ語Ⅲ(既修)	M. ビティヒ・中川 純子	春		1	2	全		9
総合ドイツ語Ⅳ(既修)	M. ビティヒ・中川 純子	秋		1	2	全		9
総合ドイツ語Ⅲ(未修)	各担当教員	春		1	2	全		10
総合ドイツ語Ⅳ(未修)	各担当教員	秋		1	2	全		10
基礎ドイツ語Ⅰ(既修)	I. アルブレヒト	春		1	1	全		11
基礎ドイツ語Ⅱ(既修)	I. アルブレヒト	秋		1	1	全		11
基礎ドイツ語Ⅰ(未修)	各担当教員	春		1	1	全		12
基礎ドイツ語Ⅱ(未修)	各担当教員	秋		1	1	全		12
応用ドイツ語Ⅰ(既修)	A. ヴェルナー	春		1	2	全		13
応用ドイツ語Ⅱ(既修)	A. ヴェルナー	秋		1	2	全		13
応用ドイツ語Ⅰ(未修)	各担当教員	春		1	2	全		14
応用ドイツ語Ⅱ(未修)	各担当教員	秋		1	2	全		14
中級ドイツ語リーディング a	S. ヴィーク	春	火3	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング b	S. ヴィーク	秋	火3	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング a	R. ヘニング	春	金2	1	2		B 25	16
中級ドイツ語リーディング b	R. ヘニング	秋	金2	1	2		B 25	16
中級ドイツ語ライティング a	H. W. ラーデケ	春	木3	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング b	H. W. ラーデケ	秋	木3	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング a	T. カーラー	春	火2	1	2		B 25	18
中級ドイツ語ライティング b	T. カーラー	秋	火2	1	2		B 25	18
中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング a	H. J. トロル	春	金1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語スピーキング b	H. J. トロル	秋	金1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語リスニング(CAL) a	H. W. ラーデケ	春	火4	1	2		A 25	21
中級ドイツ語リスニング(CAL) b	H. W. ラーデケ	秋	火4	1	2		A 25	21
中級ドイツ語リスニング(CAL) a	D. オルランド	春	木2	1	2		B 25	22
中級ドイツ語リスニング(CAL) b	D. オルランド	秋	木2	1	2		B 25	22
英語	M. J. クロフォード	春	金2	1	2		25	23
英語	M. J. クロフォード	秋	金2	1	2		25	23
総合ドイツ語Ⅴ(既修)	D. H. マッコイ	春	月1・火3	2	3		既 35	24
総合ドイツ語Ⅵ(既修)	D. H. マッコイ	秋	月1・火3	2	3		既 35	24
総合ドイツ語Ⅴ(標準)	各担当教員	春		2	3		A・B 35	25
総合ドイツ語Ⅵ(標準)	各担当教員	秋		2	3		A・B 35	25
総合ドイツ語Ⅶ(スーパー)	M. ラインデル	春	火2・水1	2	3		既 35	26
総合ドイツ語Ⅷ(スーパー)	M. ラインデル	秋	火2・水1	2	3		既 35	26
総合ドイツ語Ⅶ(標準)	D. H. マッコイ	春	月3・火1	2	3		未 35	27
総合ドイツ語Ⅷ(標準)	D. H. マッコイ	秋	月3・火1	2	3		未 35	27
上級ドイツ語リーディング a	R. ヘニング	春	月3	2	3		35	28
上級ドイツ語リーディング b	R. ヘニング	秋	月3	2	3		35	28
上級ドイツ語リーディング a	R. メッツィング	春	金2	2	3		35	29
上級ドイツ語リーディング b	R. メッツィング	秋	金2	2	3		35	29
上級ドイツ語ライティング a	R. ザンドロック	春	月2	2	3		35	30
上級ドイツ語ライティング b	R. ザンドロック	秋	月2	2	3		35	30
上級ドイツ語ライティング a	S. メルテンス	春	火2	2	3		35	31
上級ドイツ語ライティング b	S. メルテンス	秋	火2	2	3		35	31
上級ドイツ語ライティング a	A. ヴェルナー	春	金2	2	3		35	32
上級ドイツ語ライティング b	A. ヴェルナー	秋	金2	2	3		35	32
上級ドイツ語スピーキング a	D. H. マッコイ	春	月2	2	3		35	33
上級ドイツ語スピーキング b	D. H. マッコイ	秋	月2	2	3		35	33
上級ドイツ語スピーキング a	H. W. ラーデケ	春	火2	2	3		35	34
上級ドイツ語スピーキング b	H. W. ラーデケ	秋	火2	2	3		35	34
上級ドイツ語スピーキング a	R. ザンドロック	春	金2	2	3		35	35
上級ドイツ語スピーキング b	R. ザンドロック	秋	金2	2	3		35	35
上級ドイツ語リスニング(CAL) a	R. ヘニング	春	月2	2	3		35	36
上級ドイツ語リスニング(CAL) b	R. ヘニング	秋	月2	2	3		35	36
上級ドイツ語リスニング(CAL) a	S. メルテンス	春	木1	2	3		35	37
上級ドイツ語リスニング(CAL) b	S. メルテンス	秋	木1	2	3		35	37

外国語科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
中世ドイツ語 a	I. アルブレヒト	春	水2	2	3			38
中世ドイツ語 b	I. アルブレヒト	秋	水2	2	3			38
ビジネスドイツ語 a	D. H. マッコイ	春	火2	2	3			39
ビジネスドイツ語 b	D. H. マッコイ	秋	火2	2	3			39
上級ドイツ語特殊演習	V. シュタンツェル	秋	金2	2	3			40
上級英語	辻田 麻里	春	金2	2	3		25	41
上級英語	辻田 麻里	秋	金2	2	3		25	41

演習科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
ドイツ語圏入門 I	上村 敏郎	春	水3	2	1	全		42
ドイツ語圏入門 II	上村 敏郎	秋	水3	2	1	全		42
基礎演習 I	各担当教員	春	水2	2	2	全		43
基礎演習 II	各担当教員	秋	水2	2	2	全		43
通訳特殊演習	中山 純	春	水3	2	3		20	44
通訳特殊演習	中山 純	秋	水3	2	3		20	44
翻訳特殊演習	上田 浩二	春	金3	2	3		20	45
翻訳特殊演習	上田 浩二	秋	金3	2	3		20	45
インターンシップ特殊演習	A. ヴェルナー	春	木5	2	3		35	46
留学準備特殊演習	柿沼 義孝	春	金2	2	3		35	47
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	春	月5	2	3		10	48
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	秋	月5	2	3		10	48
外国語教育特殊演習	上田 浩二	秋	水2	2	3		35	49

概論・専門講義・テキスト研究科目

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
ドイツ語概論 a	柿沼 義孝	春	金4	2	1	交		50
ドイツ語概論 b	柿沼 義孝	秋	金4	2	1	交		50
ドイツ語圏文学・思想概論 a	渡部 重美	春	火1	2	1	交		51
ドイツ語圏文学・思想概論 b	渡部 重美	秋	火1	2	1	交		51
ドイツ語圏の言語 a	黒子 葉子	春	金4	2	2			52
ドイツ語圏の言語 b	黒子 葉子	秋	金4	2	2			52
ドイツ語圏の文学 a	高橋 輝暁	春	火2	2	2			53
ドイツ語圏の文学 b	高橋 輝暁	秋	火2	2	2			53
ドイツ語圏の思想 a	工藤 達也	春	月3	2	2			54
ドイツ語圏の思想 b	工藤 達也	秋	月3	2	2			54
テキスト研究(語学・文学・思想) a	M. ビティヒ	春	月2	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) b	M. ビティヒ	秋	月2	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	火3	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	火3	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	水2	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	水2	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) a	M. ラインデル	春	水2	2	3		35	58
テキスト研究(語学・文学・思想) b	M. ラインデル	秋	水2	2	3		35	58
テキスト研究(語学・文学・思想) a	中山 純	春	水4	2	3		35	59
テキスト研究(語学・文学・思想) b	中山 純	秋	水4	2	3		35	59
テキスト研究(語学・文学・思想) a	上田 浩二	春	水5	2	3		35	60
テキスト研究(語学・文学・思想) b	上田 浩二	秋	水3	2	3		35	60
テキスト研究(語学・文学・思想) a	本橋 右京	春	木2	2	3		35	61
テキスト研究(語学・文学・思想) b	本橋 右京	秋	木2	2	3		35	61
テキスト研究(語学・文学・思想) a	S. ヴィーク	春	木4	2	3		35	62
テキスト研究(語学・文学・思想) b	A. ヴェルナー	秋	木5	2	3		35	63
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木1	2	1	交		64
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木1	2	1	交		64
ドイツ語圏の美術 a	青山 愛香	春	月3	2	2			65
ドイツ語圏の美術 b	青山 愛香	秋	月3	2	2			65
ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金2	2	2			66
ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金2	2	2			66
ドイツ語圏の演劇 a	上田 浩二	春	金4	2	2			67
ドイツ語圏の演劇 b	上田 浩二	秋	金4	2	2			67
ドイツ語圏のメディア文化 a	秋野 有紀	春	金3	2	2	全	300	68
ドイツ語圏のメディア文化 b	秋野 有紀	秋	金3	2	2	全	300	68
テキスト研究(芸術・文化) b	未定	秋	火2	2	3		35	69

概論・専門講義・テキスト研究科目

09年度以降入学者用

科目名	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	定員レベル	ページ
テキスト研究(芸術・文化) a	山本 淳	春	火3	2	3		35	70
テキスト研究(芸術・文化) a	木村 佐千子	春	水2	2	3		35	71
テキスト研究(芸術・文化) b	木村 佐千子	秋	水2	2	3		35	71
テキスト研究(芸術・文化) b	高橋 輝暁	秋	水3	2	3		35	72
テキスト研究(芸術・文化) a	前田 智	春	木1	2	3		35	73
テキスト研究(芸術・文化) b	前田 智	秋	木1	2	3		35	73
テキスト研究(芸術・文化) a	I. アルブレヒト	春	木2	2	3		35	74
テキスト研究(芸術・文化) b	I. アルブレヒト	秋	木2	2	3		35	74
テキスト研究(芸術・文化) b	青山 愛香	秋	木3	2	3		35	75
テキスト研究(芸術・文化) a	辻本 勝好	春	金3	2	3		35	76
テキスト研究(芸術・文化) b	辻本 勝好	秋	金3	2	3		35	76
ドイツ語圏現代社会概論 a	岡村 りら	春	水2	2	1			77
ドイツ語圏現代社会概論 b	岡村 りら	秋	水2	2	1			77
ドイツ語圏歴史概論 a	上村 敏郎	春	火4	2	1	交		78
ドイツ語圏歴史概論 b	上村 敏郎	秋	火4	2	1	交		78
ドイツ語圏の政治・経済 a	大重 光太郎	春	木3	2	2			79
ドイツ語圏の政治・経済 b	大重 光太郎	秋	木3	2	2			79
ドイツ語圏の歴史 a	黒田 多美子	春	火2	2	2			80
ドイツ語圏の歴史 b	黒田 多美子	秋	火2	2	2			80
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	岡村 りら	春	火2	2	2			81
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	岡村 りら	秋	火2	2	2			81
ドイツ語圏現代社会・歴史特殊講義	V. シュタンツェル	秋	水3	2	2			82
テキスト研究(現代社会・歴史) a	大重 光太郎	春	月3	2	3		35	83
テキスト研究(現代社会・歴史) b	大重 光太郎	秋	月3	2	3		35	83
テキスト研究(現代社会・歴史) a	永岡 敦	春	火3	2	3		35	84
テキスト研究(現代社会・歴史) b	永岡 敦	秋	火3	2	3		35	84
テキスト研究(現代社会・歴史) a	T. マイヤー	春	火4	2	3		35	85
テキスト研究(現代社会・歴史) b	T. マイヤー	秋	火4	2	3		35	85
テキスト研究(現代社会・歴史) b	M. ビティヒ	秋	水1	2	3		35	86
テキスト研究(現代社会・歴史) a	下川 浩	春	水3	2	3		35	87
テキスト研究(現代社会・歴史) b	下川 浩	秋	水3	2	3		35	87
テキスト研究(現代社会・歴史) b	上田 浩二	春	水4	2	3		35	88
テキスト研究(現代社会・歴史) a	T. カーラー	春	木3	2	3		35	89
テキスト研究(現代社会・歴史) b	T. カーラー	秋	木3	2	3		35	89
テキスト研究(現代社会・歴史) a	宮村 重徳	春	金2	2	3		35	90
テキスト研究(現代社会・歴史) b	宮村 重徳	秋	金2	2	3		35	90
テキスト特殊研究(現代社会・歴史)	V. シュタンツェル	秋	金1	2	3			91

交流文化論(副題)

副題	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
航空産業論	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	93
ツーリズム・マネジメント論	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	94
食の文化論	北野 収	春	水2	2	2	交・養・経・法	95
トランスナショナル・メディア論	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	96
表象文化論	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	97
開発文化論	北野 収	春	金3	2	2	交・養・経・法	98
ツーリズム人類学	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	99
国際会議・イベント事業論	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	100
ツーリズム政策論	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	101
ツーリズム文化論	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	102
トランスナショナル社会学	北野 収	秋	水2	2	2	交・養・経・法	103
トランスナショナル文化特殊講義 (写真とツーリズムの交流文化史)【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	104
旅行・宿泊産業論	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	105
ツーリズム・メディア論【2012年度以前入学者】 ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論) 【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	106
市民参加のまちづくり論【2012年度以前入学者】 地域開発論【2013年度以降入学者以降】	北野 収	秋	金3	2	2	交・養・経・法	107
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	108

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	水本 義彦	春	水3	2	1	養・経・法	109
総合講座	水本 義彦	秋	水3	2	1	養・経・法	109
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	110
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	110
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	111
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						112~114
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						115~118
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	119
(言語情報処理1)	休講						
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	119
(言語情報処理2)	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						120
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	121
経済原論a	野村 容康	春	木2	2	2	養・経・法	122
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2	2	養・経・法	122
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	123
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	123

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

ドイツ語学科科目シラバス

09年度以降	総合ドイツ語 I (既修)	担当者	T. マイヤー・堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen.</p> <p>Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen.</p> <p>Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch Lektionen 1 - 4</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語 II (既修)	担当者	T. マイヤー・堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt.</p> <p>Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen.</p> <p>Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch Lektionen 5 - 8</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語 I (未修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員 (週 2 コマ) と日本人教員 (週 1 コマ) の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 I, II の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの 1～7 課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schritte international 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。	

09年度以降	総合ドイツ語 II (未修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員 (週 2 コマ) と日本人教員 (週 1 コマ) の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 I, II の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの 8～14 課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schritte international 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。	

09年度以降	総合ドイツ語 III (既修)	担当者	M. ビティヒ・中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既習-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen.</p> <p>Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen.</p> <p>Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch Lektionen 1 - 4</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語 IV (既修)	担当者	M. ビティヒ・中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既習-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt.</p> <p>Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen.</p> <p>Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch Lektionen 5 - 8</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、総合ドイツ語 V~VIII へ進めません。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語 III (未修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員 (週 2 コマ) と日本人教員 (週 1 コマ) の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの 1～7 課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schritte international 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。	

09年度以降	総合ドイツ語 IV (未修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員 (週 2 コマ) と日本人教員 (週 1 コマ) の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの 8～14 課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schritte international 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 V～VIII へ進めません。	

09年度以降	基礎ドイツ語 I (既修)	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Unterrichtswoche: Verben, Präsens 2. bis 4. Unterrichtswoche: Verben, Perfekt 5. und 6. Unterrichtswoche: Partizip II als Adjektiv 7. bis 9. Unterrichtswoche: Adjektivdeklinaton 10. und 11. Unterrichtswoche: Artikel und Artikelwörter 12. bis 14. Unterrichtswoche: Passiv 15. Unterrichtswoche: Wiederholung, Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt.		Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests	

09年度以降	基礎ドイツ語 II (既修)	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. bis 3. Unterrichtswoche: Verben, Präteritum 4. bis 6. Unterrichtswoche: Pronomina 7. bis 9. Unterrichtswoche: Konjunktiv II 10. und 11. Unterrichtswoche: Präpositionen 12. bis 14. Unterrichtswoche: Konjunktiv I (indirekte Rede) 15. Unterrichtswoche: Wiederholung, Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt.		Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests	

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。</p> <p>この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。</p> <p>具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。</p> <p>詳細（授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等）については、初回授業時に説明します。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 文字と発音について 6. } 教科書の1～10課 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々崇(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		学期末統一試験の結果によって評価します。 2/3以上の出席が単位取得の前提となります。	

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。</p> <p>この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。</p> <p>具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。</p> <p>*秋学期のはじめ頃に、動詞三基本形および教科書1～10課の内容の復習テストを行う予定です。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 教科書の11～20課 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々崇(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		2回の統一試験の結果によって評価します。 2/3以上の出席が単位取得の前提となります。	

09年度以降	応用ドイツ語 I (既修)	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentation mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Diese werden in allen 4 Fertigkeiten Lesen, Hören, Schreiben und Sprechen geübt.</p> <p>Dabei werden bei der Progression des Semesters die Bedarfe der Teilnehmenden berücksichtigt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit ist nötig.</p> <p>Die Inhalte des Unterrichts richten sich nach dem Wissen und den Kompetenzen der Teilnehmenden, die sprachlichen Anforderungen liegen auf dem Niveau B2 (Europäischer Referenzrahmen CEFR).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters und Kennenlernen 2. Grammatische Übungen, 3. Grammatik, z.B. Präpositionen 2 4. Konnektoren 2 5. Konnektoren 2 6. Modalverben 2 7. Modalpartikeln 2 8. Übungen 9. Sprachmittel verschiedener Sprechanlässe, z.B. 10. Entschuldigung, 11. Ablehnung - Annahme 12. Einladung - Dank 13. Übungen 14. Übungen 15. Abschlussbesprechung, Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピー等々を配布します。		aktive Mitarbeit im Unterricht und bei Hausaufgaben Präsentationen und Tests	

09年度以降	応用ドイツ語 II (既修)	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentationen mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Diese werden in allen 4 Fertigkeiten Lesen, Hören, Schreiben und Sprechen geübt.</p> <p>Der Schwerpunkt verlagert sich vom Alltagsdeutsch auf fachliche wissenschaftliche Deutschkompetenzen.</p> <p>Dabei werden bei der Progression des Semesters die Bedarfe der Teilnehmenden berücksichtigt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit ist nötig.</p> <p>Die Inhalte des Unterrichts richten sich nach dem Wissen und den Kompetenzen der Teilnehmenden, die sprachlichen Anforderungen liegen auf dem Niveau B2 (Europäischer Referenzrahmen CEFR).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters 2. Sprachliche Mittel für Mündliches Berichten 3. Präsentationen 4. Schriftliche Arbeiten 5. Schriftliches, usw. 6. Übungen 7. Übungen 8. Wissenschaftliches Arbeiten 9. Aufbau einer wissenschaftlichen Arbeit 10. Argumentation mündlich 11. Argumentation schriftlich 12. Interkulturelle Übungen 13. Interkulturelle Übungen 14. Erklärungen der eigenen Kultur, usw. 15. Abschlussbesprechung, Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピー等々を配布します。		aktive Mitarbeit im Unterricht und bei Hausaufgaben Präsentationen und Tests	

09年度以降	応用ドイツ語 I (未修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「応用ドイツ語 I+II」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>テキストに従って、とりわけ読解と作文に重点を置いた応用的なトレーニングを行います。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまうし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。</p>		<p>第 1 週 授業の概要説明／テキスト：Lektion 1 第 2 週 Lektion 1 第 3 週 Lektion 2 第 4 週 Lektion 2／小テスト 第 5 週 Lektion 3 第 6 週 Lektion 3／Lektion 4 第 7 週 Lektion 4 第 8 週 小テスト／Lektion 5 第 9 週 Lektion 5 第 10 週 Lektion 6 第 11 週 Lektion 6／小テスト 第 12 週 Lektion 7 第 13 週 Lektion 7／Lektion 8 第 14 週 Lektion 8 第 15 週 小テスト／授業のまとめ 備考：1 週に 2 回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト> 大谷弘道『ドイツ人を知る 9 章+1』（三修社）2011 年</p>		<p>小テストおよび学期末統一試験（出席状況にもとづく受験制限がありますので、注意してください）により評価します。</p>	

09年度以降	応用ドイツ語 II (未修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「応用ドイツ語 I+II」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch) および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>テキストに従って、とりわけ読解と作文に重点を置いた応用的なトレーニングを行います。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまうし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。</p>		<p>第 1 週 授業の概要説明／テキスト：Kapitel 1 第 2 週 Kapitel 1 第 3 週 Kapitel 2 第 4 週 Kapitel 2／小テスト 第 5 週 Kapitel 3 第 6 週 Kapitel 3／Kapitel 4 第 7 週 Kapitel 4 第 8 週 小テスト／Kapitel 5 第 9 週 Kapitel 5 第 10 週 Kapitel 6 第 11 週 Kapitel 6／小テスト 第 12 週 Kapitel 7 第 13 週 Kapitel 7／Kapitel 8 第 14 週 Kapitel 8 第 15 週 小テスト／授業のまとめ 備考：1 週に 2 回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト>Schmidt/Duppel-Takayama/三ツ石/和泉『現代ドイツを学ぶための 10 章(Kennzeichen.de junior)』（三修社）2009 年</p>		<p>小テストおよび学期末統一試験（出席状況にもとづく受験制限がありますので、注意してください）により評価します。</p>	

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lesen und sprechen mit dem Vokabular, das die Studenten bereits haben. Unser Motto ist ALLES DEUTSCH ANWENDEN, OHNE RUECKSICHT AUF FEHLER.</p> <p>Wir machen kleine Interviews und singen manchmal.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellen, Interviews, Referate verteilen. 2. KATZ UND MAUS IN GESELLSCHAFT S. 6/7 (Grammatik, Textfragen) 3. „ S. 8/9 4. „ S. 10/11 5. „ S. 12/13 6. „ S. 14/15 und Originalmaerchen 7. DER GESTIEFELTE KATER 8. „ S. 20/21 9. „ S. 22/23 10. „ S. 24/25 11. „ S. 26/27 12. „ S. 28/29 13. „ S. 30/31 14. Originalmaerchen lesen 15. Videos / Filme zu den Maerchen sehen 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>			
テキスト、参考文献		評価方法	
DER EISENOFEN, Ikubundo Verlag		Referate und schriftliche Hausaufgaben Mitarbeit im Unterricht	

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fluessiges Deutsch lernen, das bereits gelernte Deutsch moeglichst vielfaeltig anwenden, schriftlich und muendlich.</p> <p>Wir sprechen und singen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellen, Referate verteilen. 2. HAENSEL UND GRETEL S. 34/35 3. „ S. 36/37 4. „ S. 38/39 5. „ S. 40/41 6. „ S. 42/43 7. „ S. 44/45 und Originalmaerchen lesen 8. DER EISENOFEN S. 48/49 9. „ S. 50/51 10. „ S. 52/53 11. „ S. 53/54/55 12. „ S. 56/58 13. „ S. 57/58 14. Originalmaerchen lesen 15. Videos / Filme zu den Maerchen sehen 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>			
テキスト、参考文献		評価方法	
DER EISENOFEN, Ikubundo Verlag		Referate und schriftliche Hausaufgaben	

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Global- und Detailverständnis werden durch gezielt vom KL formulierte Aufgaben gesteuert.</p> <p>Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem Durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1-A1+.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest III 	
<p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt</p> <p>授業の始めに配布するプリント</p>		<p>Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten</p> <p>随時に行われる小テスト</p> <p>(Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)</p>	

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem Durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1+-A2.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest III 	
<p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt</p> <p>授業の始めに配布するプリント</p>		<p>Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten</p> <p>随時に行われる小テスト</p> <p>(Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)</p>	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Wir behandeln typische Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Daneben können auch einfache literarische Textsorten einbezogen werden.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Anlässen schriftlich sorgfältig und korrekt auszudrücken. Dabei werden neben dem Inhalt vor allem auch Aspekte wie Satzbau, Formen und Stil berücksichtigt.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des schriftlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten und Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, die schriftlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht werden wir abwechslungsweise schreiben und im anschließenden Unterricht Grammatik vertiefen und Übungen machen.</p> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p>		<p>1 Erklärung des Semesterablaufs 2 Schreiben 3 Erklärungen 4 Schreiben 5 Erklärungen 6 Schreiben 7 Erklärungen 8 Schreiben 9 Erklärungen 10 Schreiben 11 Erklärungen 12 Schreiben 13 Erklärungen 14 Schreiben 15 Erklärungen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt		50% Aktive Teilnahme 50% Semesterendtest	

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht werden wir abwechslungsweise schreiben und im anschließenden Unterricht Grammatik vertiefen und Übungen machen.</p> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p>		<p>1 Erklärung des Semesterablaufs 2 Schreiben 3 Erklärungen 4 Schreiben 5 Erklärungen 6 Schreiben 7 Erklärungen 8 Schreiben 9 Erklärungen 10 Schreiben 11 Erklärungen 12 Schreiben 13 Erklärungen 14 Schreiben 15 Erklärungen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt		50% Aktive Teilnahme 50% Semesterendtest	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs bietet sehr viel Gelegenheit zum Sprechen über Themen, an deren Auswahl von Anfang an auch die Studierenden selbst maßgeblich beteiligt sind. Bevorzugt wird die Arbeit in kleinen Gruppen, die sich in der Aufwärmphase typisch aus Teilnehmern auf vergleichbarem sprachlichem Niveau zusammensetzen. Im Laufe des Kurses mögen sich die Gruppen jedoch immer wieder neu mischen, motiviert durch das Streben nach optimalem Informationsaustausch.</p> <p>Nicht nur das Sprechen, sondern auch das Zuhören wird betont, als Voraussetzung für gezielte Reaktionen auf diverse Meinungsäußerungen, wie sie uns im Alltag bei zufälligen Zusammentreffen an, vor oder nach dem schönen Wochenende, bei verabredeten Treffen nach längeren Intervallen und auch bei zweckorientierten Meetings im Rahmen des Studentenlebens „zustößen“.</p> <p>„Bausteine“ für ausgedehntere Gespräche werden in Form von Fotokopien, audio-visuellen Materialien oder Live-Vorführungen zur Verfügung gestellt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Auswahl der Themenkreise für das 1. Semester unter Berücksichtigung der Vorschläge der Kursteilnehmer. 2. Thema 1: Gruppenbildung und Vorarbeit 3. Thema 1: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 4. Thema 2: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit 5. Thema 2: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 6. Thema 3: Gruppenbildung und Vorarbeit 7. Thema 3: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 8. Thema 4: Gruppenbildung und Vorarbeit 9. Thema 4: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 10. Thema 5: Gruppenbildung und Vorarbeit 11. Thema 5: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 12. Thema 6: Gruppenbildung und Vorarbeit 13. Thema 6: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 14. Rückblickende Übung und Absprache in Gruppen von mehr als zwei Teilnehmern. 15. Evaluatives Interview im Paar-Format zu allen im Semester behandelten Themen. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Anknüpfend an die Dialog- bzw. Präsentationsarbeit des Sommersemesters orientiert sich die Themenauswahl stärker an individuellen und Gruppen-Präferenzen. Dabei üben wir vor allem das Initiieren und rasche verbale Reagieren beim Plaudern und auch im ernsten Gespräch, so wie es erwartete oder oft unerwartete Fragen und Antworten verlangen. Gefragt ist ein aktives Interesse an der Erweiterung des eigenen Wortschatzes, wozu gerade das im Sommersemester erprobte Format dieses Kurses viel Gelegenheit bietet.</p> <p>Neben einem bereicherten Wortschatz gehören auch Strategien zum Themenwechsel und zum Beenden des Gesprächs auf höfliche Weise zum Erfolgsrezept.</p> <p>„Musterbeispiele“, die besonders den Einstieg für alle neuen TeilnehmerInnen erleichtern, werden in Form von Fotokopien oder audio-visuellen Materialien zur Verfügung gestellt</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Auswahl der Themenkreise für das 2. Semester unter Berücksichtigung der Vorschläge der Kursteilnehmer. 2. Thema 7: Gruppenbildung und Vorarbeit 3. Thema 7: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 4. Thema 8: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit 5. Thema 8: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 6. Thema 9: Gruppenbildung und Vorarbeit 7. Thema 9: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 8. Thema 10: Gruppenbildung und Vorarbeit 9. Thema 10: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 10. Thema 11: Gruppenbildung und Vorarbeit 11. Thema 11: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 12. Thema 12: Gruppenbildung und Vorarbeit 13. Thema 12: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 14. Rückblickende Übung und Absprache in Gruppen von mehr als zwei Teilnehmern. 15. Evaluatives Interview im Paar-Format zu allen im Semester behandelten Themen. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir beginnen einfach, mit langsamen Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich fuer einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage fuer Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aller Art 3. Deutschlandkunde 4. Lektion 1 5. Lektion 2 a 6. Lektion 2b 7. Kleiner Test und Video 8. Lektion 3a 9. Lektion 3b 10. Lektion 4a 11. Lektion 4b 12. Kleiner Test und Video 13. Lektion 5a 14. Lektion 5b 15. Zusammenfassung 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Szenen 2 (ISBN978-4-384-13089-8) Sanshusha		Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)	

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Gleiche wie oben wird angewandt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aus dem ersten Semester 3. Lektion 6a 4. Lektion 6b 5. Lektion 7a 6. Lektion 7b 7. Lektion 8a 8. Lektion 8b 9. Kleiner Test und Video 10. Lektion 9a 11. Lektion 9b 12. Lektion 10a 13. Lektion 10b 14. Kleiner Test und Video 15. Zusammenfassung/Abschluss 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lehrbuch wie oben: Szenen 2 (ISBN978-4-384-13089-8) Sanshusha		Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand praktischer Beispiele. Dabei verwenden wir Hörtexte aus typischen Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Daneben können auch einfache Hörspiele eingesetzt werden.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, diese Hörtexte zu verstehen, sowie damit verbundene Aufgaben lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können in relevantem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語II」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Hörverstehens. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können in relevantem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語II」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも可。)</p> </div>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir das Hörverständnis sowie die Sprachfertigkeiten erweitern. Wir werden verschiedene Hörspiele und Filmszenen behandeln, durch die wir auch Informationen zu bestimmten Alltagsthemen (Einkaufen, Wohnen, Liebe ...) bekommen werden.</p> <p>Neben diesen Übungen gibt es auch Hörübungen zu Start Deutsch 2 oder aus diversen Lehrbüchern.</p> <p>Je nach Kurszusammensetzung werden auch von den Studierenden verfasste Texte zu den einzelnen Themengebieten aufgenommen und als Hörverständnisübung in den Kurs integriert.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Hörstrategien 2. Filmszene 1 zum Thema 'Begegnungen' 3. Filmszene (2) zum Thema 'Wohnen' 4. Filmszene (3) zum Thema 'Partnerschaften' 5. Filmszene (4) zum Thema 'Mein Tag' 6. Diverse Hörübungen zu Start Deutsch 2 7. Diverse Hörübungen zu Start Deutsch 2 8. Filmszene (5) zum Thema 'Jobsuche' 9. Filmszene (6) zum Thema 'Ernährung' 10. Filmszene (7) zum Thema 'WG' 11. Filmszene (8) zum Thema 'Daten' 12. Filmszene (9) zum Thema 'Liebe' 13. Diverse Hörübungen zu Start Deutsch 2 14. Diverse Hörübungen zu Start Deutsch 2 15. Hörverständnisübung zu den Studententexten 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Transkriptionen und Aufgabenblätter werden ausgehändigt. Filmsequenzen/Transkriptionen sollen zu Hause vorbereitet werden</p>		<p>Aktive Mitarbeit, Interesse an Partnerarbeit und die Bereitschaft, zu Hause die verteilten Texte vorzubereiten.</p>	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Semester werden wir ebenfalls das Hörverständnis sowie die Sprachfertigkeiten erweitern. Anhand der Detektivgeschichte 'Der Auftrag' können wir erleben, wie die beiden Detektive Gröger und Schlock Informationen zur mysteriösen Zaza sammeln und dabei viele Abenteuer erleben.</p> <p>Bei 'Der Auftrag' handelt es sich um Aufgaben zum globalen und selektiven Textverständnis.</p> <p>Neben dieser Hörgeschichte werden uns Passagen aus dem Hörbuch 'Das Idealpaar' von Leonhard Thoma im Kurs sowie Übungen aus verschiedenen Lehrbüchern durch das Semester begleiten.</p> <p>Je nach Kurszusammensetzung werden auch von den Studierenden verfasste Texte zu den einzelnen Themengebieten aufgenommen und als Hörverständnisübung in den Kurs integriert.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Hörstrategien (Globales und detailliertes Verstehen. 2. 'Der Auftrag' (1). Wer sind die Hauptprotagonisten? 3. 'Der Auftrag' (2). Die Wohnung von Zaza. 4. Studententexte. Fortführung der Geschichte. 5. 'Das Idealpaar' (1). Gemeinsamkeiten und Unterschiede. 6. 'Das Idealpaar' (2). Schlaflose Nacht. 7. 'Das Idealpaar' (3). Lucias Liebesgeschichte. 8. Studententexte. Fortführung der Geschichte. 9. 'Der Auftrag' (3). Der Brief. 10. 'Der Auftrag' (4). Zazas Auftrag. 11. 'Der Auftrag' (5). Der Brief und die falschen Information. 12. 'Der Auftrag' (6). Der erste Streit. 13. Studententexte. Fortführung der Geschichte. 14. 'Der Auftrag'. Zusammenfassung. 15. 'Das Idealpaar'. Zusammenfassung. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Transkriptionen und Aufgabenblätter werden ausgehändigt. Filmsequenzen/Transkriptionen sollen zu Hause vorbereitet werden</p>		<p>Aktive Mitarbeit, Interesse an Partnerarbeit und die Bereitschaft, zu Hause die verteilten Texte vorzubereiten.</p>	

09年度以降	英語	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p>Presentations: Students will give two presentations in this class. For the first presentation, students will work in small groups and do research on a topic or topics of their choice. They will then present the results of their research to their classmates. The process will be the same for the second presentation, but students will work on their own and give presentations individually.</p> <p>Minimum TOEIC score required: 450</p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Class participation (20%), short reports (20%), presentations (30% x 2 = 60%)	

09年度以降	英語	担当者	M. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to 1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p>Presentations: Students will give two presentations in this class. For the first presentation, students will work in small groups and do research on a topic or topics of their choice. They will then present the results of their research to their classmates. The process will be the same for the second presentation, but students will work on their own and give presentations individually.</p> <p>Minimum TOEIC score required: 450</p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Class participation (20%), short reports (20%), presentations (30% x 2 = 60%)	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅴ(既修)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既習-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen auf höherem Niveau fortgesetzt.</p> <p>Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen.</p> <p>Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch Lektionen 9 - 12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅵ(既修)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既習-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen auf höherem Niveau fortgesetzt.</p> <p>Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtsstunden pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen.</p> <p>Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch Lektionen 13 - 16</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入</p>		<p>平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。</p>	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅴ（標準）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 09年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅴ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 未修クラスの学生用には、標準Aクラス（総合ドイツ語Ⅳの成績がA以上の学生用）と標準Bクラス（同、B以下の学生用）が開設されます。 既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅴ」（既修クラス用）を受講してください。 詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの1～7課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schritte international 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		平常点や試験の結果等を総合して評価します。	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅵ（標準）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 09年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅵ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 未修クラスの学生用には、標準Aクラス（総合ドイツ語Ⅴの成績がA以上の学生用）と標準Bクラス（同、B以下の学生用）が開設されます。 既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅵ」（既修クラス用）を受講してください。 詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの8～14課</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Schritte international 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) > 初回授業時まで購入		平常点や試験の結果等を総合して評価します。	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ (スーパー)	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, gezielt an Ihren Schwächen zu arbeiten. Dabei werden grundsätzlich alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, den Teilnehmenden individuell angemessene Unterstützung beim Aufbau auf ihr hohes Sprachniveau zu bieten.</p> <p>Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen – grundsätzlich können aktuelle Themen aus Politik, Wirtschaft und Gesellschaft, Themen aus Kultur und Wissenschaft, sowie Ihre jeweiligen Forschungsthemen Gegenstand des Unterrichtsgesprächs werden.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (1) 3. Gesellschaft (2) 4. Politik (1) 5. Politik (2) 6. Wirtschaft (1) 7. Wirtschaft (2) 8. Kultur (1) 9. Kultur (2) 10. Wissenschaft (1) 11. Wissenschaft (2) 12. Ihre Forschungsthemen (1) 13. Ihre Forschungsthemen (2) 14. Ihre Forschungsthemen (3) 15. Evaluation, Kursfazit 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Lernmaterial wird im Unterricht verteilt.		Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht, mindestens eine Präsentation, schriftliche Hausarbeiten sowie schriftliche und mündliche Tests.	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ (スーパー)	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, gezielt an Ihren Schwächen zu arbeiten. Dabei werden grundsätzlich alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, den Teilnehmenden individuell angemessene Unterstützung beim Aufbau auf ihr hohes Sprachniveau zu bieten.</p> <p>Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen – grundsätzlich können aktuelle Themen aus Politik, Wirtschaft und Gesellschaft, Themen aus Kunst und Wissenschaft, sowie Ihre jeweiligen Forschungsthemen Gegenstand des Unterrichtsgesprächs werden.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (3) 3. Gesellschaft (4) 4. Politik (3) 5. Politik (4) 6. Wirtschaft (3) 7. Wirtschaft (4) 8. Kultur (3) 9. Kultur (4) 10. Wissenschaft (3) 11. Wissenschaft (4) 12. Ihre Forschungsthemen (4) 13. Ihre Forschungsthemen (5) 14. Ihre Forschungsthemen (6) 15. Evaluation, Kursfazit 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Lernmaterial wird im Unterricht verteilt.		Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht, mindestens eine Präsentation, schriftliche Hausarbeiten sowie schriftliche und mündliche Tests.	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ（標準）	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅶ」は選択必修 （1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅶ（スーパー）」（既修クラス用）を受講してください。 詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの1～4課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）初回授業時までに購入。（総合ドイツ語ⅦⅧでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		平常点や試験の結果等を総合して評価します。	

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ（標準）	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅷ」は選択必修 （1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅷ（スーパー）」（既修クラス用）を必ず受講してください。 詳しくは、時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">テキストの5～8課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber） （総合ドイツ語ⅦⅧでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		平常点や試験の結果等を総合して評価します。	

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland.</p> <p>Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes. Das Niveau der Texte reicht von A2 bis B1.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest III 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lehrmaterialien werden vom Kursleiter zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten. (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)	

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland.</p> <p>Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest III 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lehrmaterialien werden vom Kursleiter zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten. (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)	

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Sommersemester 2015</p> <p>In diesem Kurs soll das Leseverstehen geschult werden. Das Buch „Leseverstehen“ konzentriert sich auf systematische Übungen zur Fertigung „Leseverstehen“.</p> <p>Erster Teil: Heranführung der Lerner an den Umgang mit Texten und Lesestrategien. (Niveau: A1/A2)</p> <p>Zweiter Teil: Wortschatzerweiterung und etwas längere Texte mit Übungen. (Niveau: A2)</p> <p>Es gibt kein Buch, sondern Kopiervorlagen. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.</p>		<p>Unterrichtseinheiten</p> <p>1: Die Überschrift 2: Zusammengesetzte Nomen 3: Die Negation 4: Additive Verbindungswörter 5: Adversative und konzessive Verbindungswörter 6: Kausale und konsekutive Verbindungswörter 7: Finale und konsekutive Verbindungswörter 8: Synonyme 9: Kleine, aber wichtige Wörter 10: Fallen 11: Text: Niveau A2, Weltmeister mit Sonnenenergie 12: Tödliche Stunden 13: Lotto 14: Test 1 15: Alles Gute zum Geburtstag, Hamburger</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es gibt kein Buch, sondern Kopiervorlagen.		Bewertung: Test 70%, mündliche Beteiligung 30%	

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Wintersemester 2015/16</p> <p>In diesem Kurs werden die Lesestrategien „globales -, selektives – und Detailverstehen“ auf dem Niveau B1 geübt.</p> <p>An verschiedenen Zertifikatsvorbereitungsübungen werden die Lesestrategien geübt.</p>		<p>Unterrichtseinheiten</p> <p>1: Einführung: Lesestrategien 2: Globalverstehen Ü1, Ü2 3: Globalverstehen Ü3, Ü4 4: Selektives Verstehen Ü1, Ü2 5: Selektives Verstehen Ü3, Ü4 6: Detailverstehen Ü1, Ü2 7: Detailverstehen Ü3, Ü4 8: Detailverstehen Ü6, Ü7 9: Detailverstehen Ü8, Ü8a 10: Detailverstehen Ü9 11: Detailverstehen Ü10 12: Detailverstehen Ü11 13: Lesetext aus der Zeitung 14: Test 1 15: Lesetext aus der Zeitung</p>	
In テキスト、参考文献		評価方法	
Es gibt kein Buch, sondern Kopiervorlagen.		Bewertung: Test 70%, mündliche Beteiligung 30%	

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir üben das Schreiben von Texten. Die Texte sind zu Hause vorzubereiten oder zu schreiben. Es soll über Inhalte und verschiedene Formulierungen gesprochen werden. Kurzreferate können gehalten werden. Vorschläge der Studenten sind sehr willkommen.</p>		<p>1., 2. und 3. Familie in D-A-CH und Japan 4., 5. und 6. Umwelt in D-A-CH und Japan 7., 8. und 9. Küche und Essen in D-A-CH und Japan 10., 11. und 12. Ferien und Feiertage in D-A-CH und Japan 13., 14. und 15. Weltanschauung und Glaube in D-A-CH und Japan</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		regelmäßige, aktive Mitarbeit Kurztests, Kurzreferate	

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir üben das Schreiben von Texten. Die Texte sind zu Hause vorzubereiten oder zu schreiben. Es soll über Inhalte und verschiedene Formulierungen gesprochen werden. Kurzreferate können gehalten werden. Vorschläge der Studenten sind sehr willkommen.</p>		<p>1., 2. und 3. Politik in D-A-CH und Japan 4., 5. und 6. Wirtschaft in D-A-CH und Japan 7., 8. und 9. Fernsehen in D-A-CH und Japan 10., 11. und 12. Internationalität in D-A-CH und Japan 13., 14. und 15. Schule und Bildung in D-A-CH und Japan</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		regelmäßige, aktive Mitarbeit Kurztests, Kurzreferate	

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten im dritten und vierten Studienjahr. Ziel des Kurses ist es, sich schriftlich auf Deutsch besser ausdrücken zu können. Strukturelle und stilistische Merkmale (z.B. Textgliederung, Satzbau) werden ebenso geübt wie kreatives Schreiben (Erzählung, Ausdruck).</p> <p>Das Semester gliedert sich in zwei Teile. Im ersten Teil wird die Beschreibung von Gesehenem anhand von Bildern, Bildergeschichten und kurzen Videos geübt. Im zweiten Teil sollen die Studenten freies und kreatives Schreiben anhand von vorgegebenen Situationen (z.B. über eine Reise berichten) in privaten Briefen oder E-Mail üben.</p> <p>Interesse am Schreiben von Texten sowie Bereitschaft zur Gruppenarbeit wird vorausgesetzt. Eine aktive und konzentrierte Mitarbeit im Unterricht wird gefordert.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung und Überblick über den Kursverlauf 2. Bild (1) 3. Bild (2) 4. Bild (3) 5. Bildgeschichte (1) 6. Bildgeschichte (2) 7. Bildgeschichte (3) 8. Video (1) 9. Video (2) 10. Video (3) 11. Kreatives Schreiben (1) 12. Kreatives Schreiben (2) 13. Kreatives Schreiben (3) 14. Kreatives Schreiben (4) 15. Zusammenfassung und Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden als Kopie zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt.		aktive Mitarbeit, schriftliche Arbeiten, kleinere Zwischentests	

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten im dritten und vierten Studienjahr. Ziel des Kurses ist es, sich schriftlich auf Deutsch besser ausdrücken zu können. Strukturelle und stilistische Merkmale (z.B. Textgliederung, Satzbau) werden ebenso geübt wie kreatives Schreiben.</p> <p>Das Semester gliedert sich in zwei Teile. Im ersten Teil werden geschäftliche E-Mail (Anfrage, Reklamation) und insbesondere Bewerbungen geübt. Im zweiten (kreativen) Teil sollen die Studenten in Gruppen zu selbst gewählten Themen eigenständig Informationen sammeln und Berichte für Zeitung oder Radio schreiben. Die genaue Festlegung erfolgt in Rücksprache mit den Teilnehmern. Interesse am Schreiben von Texten sowie Bereitschaft zur Gruppenarbeit wird vorausgesetzt. Eine aktive und konzentrierte Mitarbeit im Unterricht wird gefordert.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung und Überblick über den Kursverlauf 2. Geschäftliche E-Mail (1) 3. Geschäftliche E-Mail (2) 4. Geschäftliche E-Mail 5. Bewerbung (1) 6. Bewerbung (2) 7. Bewerbung (3) 8. Zeitungsbericht/Radiobereich: Analyse 9. (wie 8) 10. Kreatives Schreiben (1) 11. Kreatives Schreiben (2) 12. Kreatives Schreiben (3) 13. Kreatives Schreiben (4) 14. Kreatives Schreiben (5) 15. Zusammenfassung und Evaluation des Semesters 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden als Kopie zu Beginn jeder Lehrveranstaltung verteilt.		aktive Mitarbeit, schriftliche Arbeiten, kleinere Zwischentests	

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schreiben auf Deutsch soll an verschiedenen Textsorten geübt werden.</p> <p>Wir machen Bildbeschreibungen, narrative Texte, Zusammenfassungen, aktuelle Berichte und Filme nacherzählen und zusammenfassen, Protokolle, kurze wissenschaftliche Texte, u.a.</p> <p>Je nach Teilnehmern kann auch kreatives Schreiben, alleine oder in einer kleinen Gruppe angeboten werden.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Teilnahme sind nötig.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semesterplan und –inhalt besprechen 2. Bildbeschreibungen 1. Übung 3. 2. Übung 4. 3. Übung 5. Besprechung der Ergebnisse 6. Einen Vorgang beschreiben 1. Übung 7. 2. Übung 8. 3. Übung 9. Besprechung der Ergebnisse 10. Eine Geschichte erzählen 1. Übung 11. 2. Übung 12. 3. Übung 13. 4. Übung 14. Besprechung der Ergebnisse 15. Zusammenfassung, Evaluation des Semesters 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt.		Aktive Mitarbeit, Schriftliche Arbeiten, Test.	

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schreiben auf Deutsch soll an verschiedenen Textsorten geübt werden.</p> <p>Wir machen schreiben narrative Texte, Zusammenfassungen, aktuelle Berichte und Filme nacherzählen, zusammenfassen und bewerten, für andere Personen Unbekanntes (z.B. kulturelle japanische Charakteristika) erklären, Protokolle, kurze wissenschaftliche Texte, u.a.</p> <p>Je nach Teilnehmern kann auch kreatives Schreiben, alleine oder in einer kleinen Gruppe angeboten werden.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Teilnahme.und Bereitschaft zur Gruppenarbeit sind nötig.</p> <p>Eigene Vorschläge für Übungen sind willkommen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Semesterplan und –inhalt besprechen 2. Zusammenfassungen 1. Übung 3. 2. Übung 4. 3. Übung 5. Besprechung der Ergebnisse 6. Über Filme und Videos schreiben 1. Übung 7. 2. Übung 8. 3. Übung 9. Besprechung der Ergebnisse 10. Protokolle, wissenschaftliche Texte 1. Übung 11. 2. Übung 12. 3. Übung 13. 4. Übung 14. Besprechung der Ergebnisse 15. Zusammenfassung, Evaluation des Semesters 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt.		Aktive Mitarbeit, Schriftliche Arbeiten, Test.	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Unterrichts ist es, Studenten auf verschiedene Kommunikationssituationen im Alltag und im Studium vorzubereiten.</p> <p>Wortschatz und Sprachmittel leiten jede Unterrichtseinheit ein. Durch Hörverstehen, Diktate, und Paargespräche werden schrittweise die richtige Aussprache, Intonation, Sprachmelodie eingeübt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Ich bin ... 3. Partnergespräch 4. Studium 5. Universität 6. Länder 7. Reisen 8. Essen & Trinken 9. Gesundheit 10. Sport 11. Hobbys/Freizeit 12. Musik 13. Sommer 14. Gruppendiskussion 15. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Material wird zur Verfügung gestellt.		授業への積極的な参加と、小テストで評価します。	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Unterrichts im zweiten Semester ist es, Spontanität und Redefluss zu verbessern. Die Themen und Kommunikationssituationen werden komplexer, und vermehrt Multimediabeiträge eingesetzt.</p> <p>Wortschatz und Sprachmittel leiten jede Unterrichtseinheit ein. Durch Hörverstehen, Diktate, und Paargespräche werden schrittweise die richtige Aussprache, Intonation, und Sprachmelodie eingeübt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Deutschland 3. Japan 4. Politik 5. Wirtschaft 6. Interview 7. Funk & Fernsehen 8. Film 9. Partnergespräche 10. Gesprächsanalyse 11. Präsentationsvorbereitung 12. Präsentationen 13. Präsentationen 14. Gruppendiskussion 15. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Material wird zur Verfügung gestellt.		授業への積極的な参加と発表によって評価します。	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des mündlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Wir behandeln typische Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Sprechanlässen korrekt und klar verständlich zu äußern. Dabei werden neben grammatischen Aspekten auch Intonation (Betonung/Satzmelodie) und Phonetik (Aussprache) trainiert.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des mündlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Lesen, Hören oder Schreiben einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Kursinhalt</p> <p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des mündlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden neue Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, die mündlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Anforderungen bewältigen können.</p> <hr/> <p>Weitere Informationen</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Allgemeine Mitarbeit Tests im Rahmen des Unterrichts	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir üben das Sprechen und Verstehen von Texten. Die Texte sind zu Hause üben und in der Klasse vorzutragen und zu verstehen. Die Studentinnen sollen möglichst viel sprechen. Kurzreferate können gehalten werden. Vorschläge der Studenten sind sehr willkommen.</p>		<p>1., 2. und 3. Schriftsteller in D-A-CH und Japan 4., 5. und 6. Musiker in D-A-CH und Japan 7., 8. und 9. Bildhauer in D-A-CH und Japan 10., 11. und 12. Schauspieler in D-A-CH und Japan 13., 14. und 15. Museen in D-A-CH und Japan</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		regelmäßige, aktive Mitarbeit Kurztests, Kurzreferate	

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	R. ザンドロック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir üben das Sprechen und Verstehen von Texten. Die Texte sind zu Hause üben und in der Klasse vorzutragen und zu verstehen. Die Studentinnen sollen möglichst viel sprechen. Kurzreferate können gehalten werden. Vorschläge der Studenten sind sehr willkommen.</p>		<p>1., 2. und 3. Smalltalk in D-A-CH und Japan 4., 5. und 6. Jugendsprache in D-A-CH und Japan 7., 8. und 9. Dialekte in D-A-CH und Japan 10., 11. und 12. Fremdsprachen in D-A-CH und Japan 13., 14. und 15. Schule und Bildung in D-A-CH und Japan</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		regelmäßige, aktive Mitarbeit Kurztests, Kurzreferate	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Hörkurs</i> <i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer. <i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien (MP3- / MP4-Dateien)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Telenovela Jojo 1 (33 Folgen): MP4 2. Liebe und Beziehungen (1): MP4 – Popsong 3. Liebe und Beziehungen (2): MP4 – Lorient-Sketch 1 4. Liebe und Beziehungen (3): MP4 – Lorient-Sketch 2 5. Liebe und Beziehungen (4): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 1 6. Liebe und Beziehungen (5): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 2 7. Heimat und Erfahrung von Fremde (1): MP3/4 – Interview 8. Heimat und Erfahrung von Fremde (2): MP3/4 – Interview 9. Deutsche Kultur: MP3 – Radio-Interview 10. Japaner in Deutschland: MP4 – Fernsehbericht 11. Urlaub in Deutschland: MP3/MP4 – Fernsehbericht/Interviews 12. Deutsche Geschichte: Wiedervereinigung: MP4 – kritischer Popsong 13. Weihnachten in Deutschland (1): MP4 – Fernseh-Bericht 14. Weihnachten in Deutschland (2): MP4 – Lorient-Sketch 15. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (1) 16. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (2) 17. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (3) <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen A2 bis C1. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.). <i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Zwischentest I 5. Thema 3 6. Thema 4 7. Thema 5 8. Zwischentest II 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Zwischentest III 13. Thema 9 14. Thema 10 15. Zwischentest IV 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		Beurteilung aufgrund regelmäßig durchgeführter Tests zu den bearbeiteten Aufgabenblöcken (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fortsetzung aus dem SoSe <i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabsammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer. <i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien (MP3- / MP4-Dateien)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Telenovela Jojo 1 (33 Folgen): MP4 2. Liebe und Beziehungen (1): MP4 – Popsong 3. Liebe und Beziehungen (2): MP4 – Lorient-Sketch 1 4. Liebe und Beziehungen (3): MP4 – Lorient-Sketch 2 5. Liebe und Beziehungen (4): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 1 6. Liebe und Beziehungen (5): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 2 7. Heimat und Erfahrung von Fremde (1): MP3/4 – Interview 8. Heimat und Erfahrung von Fremde (2): MP3/4 – Interview 9. Deutsche Kultur: MP3 – Radio-Interview 10. Japaner in Deutschland: MP4 – Fernsehbericht 11. Urlaub in Deutschland: MP3/MP4 – Fernsehbericht/Interviews 12. Deutsche Geschichte: Wiedervereinigung: MP4 – kritischer Popsong 13. Weihnachten in Deutschland (1): MP4 – Fernseh-Bericht 14. Weihnachten in Deutschland (2): MP4 – Lorient-Sketch 15. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (1) 16. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (2) 17. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (3) <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen A2 bis C1. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.). <i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Zwischentest I 5. Thema 3 6. Thema 4 7. Thema 5 8. Zwischentest II 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Zwischentest III 13. Thema 9 14. Thema 10 15. Zwischentest IV 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		Beurteilung aufgrund regelmäßig durchgeführter Tests zu den bearbeiteten Aufgabenblöcken (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten im dritten und vierten Studienjahr.</p> <p>Ziel des Kurses ist die Verbesserung des hörenden Verstehens. Dies bedeutet ein Üben (1) des Aufnehmens akkustischer Informationen und (2) der Umsetzung dieser Informationen in sinnvolles Verstehen. Beim Hören gibt es spezifische Schwierigkeiten, nämlich „Zeit“ (z.B. Geschwindigkeit des Gesprochenen) und „Varietäten“ (z.B. Dialekte).</p> <p>Anhand von Radio- oder Videobeiträgen soll die Aufnahme und Verständnisfähigkeit gezielt trainiert werden. Neben Alltagssituationen sollen möglichst Beiträge verwendet werden, die aktuelle Ereignisse und Themen aus dem deutschsprachigen Raum vorstellen.</p> <p>Interesse an der Zielsetzung des Unterrichts und die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Mitarbeit im Unterricht werden gefordert.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung detaillierten Semesterplans 2. Einstiegsübungen (1) 3. Einstiegsübungen (2) 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Test zu 1 bis 4 9. Thema 5 10. Thema 6 11. Thema 7 12. Thema 8 13. Thema 9 14. Test zu 5 bis 9 15. Evaluation des Semesters <p>* zunehmender Schwierigkeitsgrad der Hörübungen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden als Kopie zu Beginn jeder Lehrveranstaltung verteilt.		aktive Mitarbeit im Unterricht kleinere Zwischentests	

09年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an die Studenten im dritten und vierten Studienjahr.</p> <p>Ziel des Kurses ist die Verbesserung des hörenden Verstehens. Dies bedeutet ein Üben (1) des Aufnehmens akkustischer Informationen und (2) der Umsetzung dieser Informationen in sinnvolles Verstehen. Beim Hören gibt es spezifische Schwierigkeiten, nämlich „Zeit“ (z.B. Geschwindigkeit des Gesprochenen) und „Varietäten“ (z.B. Dialekte).</p> <p>Anhand von Radio- oder Videobeiträgen soll die Aufnahme und Verständnisfähigkeit gezielt trainiert werden. Neben Alltagssituationen sollen möglichst Beiträge verwendet werden, die aktuelle Ereignisse aus dem deutschsprachigen Raum vorstellen.</p> <p>Interesse an der Zielsetzung des Unterrichts und die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Mitarbeit im Unterricht werden gefordert.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung detaillierten Semesterplans 2. Einstiegsübungen (1) 3. Einstiegsübungen (2) 4. Thema 10 5. Thema 11 6. Thema 12 7. Thema 13 8. Test zu 10 bis 13 9. Thema 14 10. Thema 15 11. Thema 16 12. Thema 17 13. Thema 18 14. Test zu 10 bis 18 15. Evaluation des Semesters <p>* zunehmender Schwierigkeitsgrad der Hörübungen</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden als Kopie zu Beginn jeder Lehrveranstaltung verteilt.		aktive Mitarbeit im Unterricht kleinere Zwischentests	

09年度以降	中世ドイツ語 a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Nibelungenlied, Tristan und Isolde, Parzival... als mittelhochdeutsch bezeichnet man die deutschsprachigen Texte der Zeit des 12. bis 14. Jahrhunderts, der ersten Blütezeit der deutschsprachigen Literatur. Es sind viele interessante, komische, humorvolle und berührende Texte erhalten, die uns Einblick geben in das Denken und Leben und die Träume der mittelalterlichen Menschen. Solche Texte im Original zu lesen ist reizvoll und gar nicht so schwierig. Grammatik und Rechtschreibung waren nicht so kompliziert und geregelt wie im heutigen Deutsch.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3. bis 6. Unterrichtseinheit Nibelungenlied, Siegfried 7. bis 10. Unterrichtseinheit: Nibelungenlied, Gunther und Brünhild 11. bis 14. Unterrichtseinheit: Nibelungenlied: Siegfrieds Tod 15. Unterrichtseinheit: Zusammenfassung, Wiederholung 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt.		Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test	

09年度以降	中世ドイツ語 b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Unterricht soll in die Lage versetzen, mittelhochdeutsche Texte lesen und übersetzen zu können. Neben der systematischen Beschreibung des Mittelhochdeutschen (Erwerb solider Grammatikkenntnisse) wird die historische Stellung des Mittelhochdeutschen innerhalb der Geschichte der deutschen Sprache besonders berücksichtigt, speziell die semantische Entwicklung, die Bedeutungsdifferenz von Mittelhochdeutsch und Gegenwartssprache, die syntaktischen und morphologischen Unterschiede sowie Genitivkonstruktionen, Negation, Formen der Verben etc.).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3. bis 6. Unterrichtseinheit die ritterlich-höfische Welt (Wolfram von Eschenbach Parzival, Hartmann von Aue Iwein, Erech) 7. bis 10. Unterrichtseinheit: die bäuerliche Welt (Wernher der Gartenaere Helmbrecht, Wittenwiler Der Ring) 11. bis 14. Unterrichtseinheit: Heldenepik (Nibelungenlied) 15. Unterrichtseinheit: Zusammenfassung, Wiederholung 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt.		Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test	

09年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;">Gut im Geschäft</p> <p>Ziel dieses Unterrichts ist es, die Studenten auf verschiedene Geschäftssituationen vorzubereiten - von der Korrespondenz bis zur Konferenz, von dem Vortrag bis zum Vorstellungsgespräch.</p> <p>Wortschatz und Übungen sind aktuell, themenbezogen und praxisnah, und werden durch Rollenspiele, Mini-Diskussionen und Multimedia-Beiträge ergänzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Kontaktaufnahme: E-Mail 3. Kontaktaufnahme: Smalltalk 4. Kontaktaufnahme: Telefon 5. Arbeitsplatz: Büro 6. Arbeitsplatz: Computer 7. Arbeitsplatz: Bewerbungen 8. Werbung/Marketing 9. Werbung in Japan 10. Werbung in Deutschland 11. Produktpräsentation 12. Statistiken 13. Standort 14. Finanzwelt 15. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Material wird zur Verfügung gestellt.		授業への積極的な参加と作文によって評価します。	

09年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;">Gut im Geschäft II</p> <p>Ziel dieses Unterrichts ist es, die Studenten auf verschiedene Geschäftssituationen vorzubereiten - von der Korrespondenz bis zur Konferenz, von dem Vortrag bis zum Vorstellungsgespräch.</p> <p>Wortschatz und Übungen sind aktuell, themenbezogen und praxisnah, und werden durch Rollenspiele, Mini-Diskussionen und Multimedia-Beiträge ergänzt.</p> <p>Themenschwerpunkt ist die Vorbereitung und Durchführung einer eigenen Präsentation zu einem Wirtschaftsthema.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Deutsche Wirtschaft 3. Japanische Wirtschaft 4. Ländervergleich Wirtschaft D/JAP 5. Firmenbesuch 6. Geschäftsreise 7. Konferenzen/Seminare 8. Interkulturelle Kommunikation 1 9. Interkulturelle Kommunikation 2 10. Interkulturelle Kompetenz 11. Präsentation: Software 12. Präsentation: Vorbereitung 13. Studenten-Präsentationen 14. Studenten-Präsentationen 15. Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Material wird zur Verfügung gestellt.		授業への積極的な参加と発表によって評価します。	

09年度以降	上級ドイツ語特殊演習	担当者	客員教授 V. シュタンツェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aktuelle Fragen der Stellung Europas in der Welt Das Verständnis der Situation, in der Europa sich heute zwischen Weltmächten und neuen globalen Herausforderungen befindet, entsteht durch einen genauen Blick auf konkrete Fragestellungen. Solche werden wir analysieren, um am Ende des Semesters in der Lage zu sein „Europa heute“ zu verstehen und zu erklären.</p> <p>Reader mit kurzen Texten von Adolf Muschg: Vergessen wir Europa? Hans-Dietrich Genscher: Europa in einer neuen Weltordnung, Hans-Ulrich Wehler: Konflikte zu Beginn des 21. Jahrhunderts, Joschka Fischer: Scheitert Europa? Angela Merkel: Rede vom 27. Februar 2014 in London, Bruno Kreisky: Zwischen den Zeiten</p>		<p><2015年度 秋学期> 詳細については初回授業時に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		初回授業時に説明します。	

09年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。</p> <p>Academic Reading/ Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。</p> <p>セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー(1000-2000語)を書き、最終授業で発表します。春学期は、環境問題をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修者はTOEIC 500点を目安とする。 German Studies in English IまたはAcademic Writing I, IIを履修していることが望ましい。 リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。 		<p>Week 1 Course Introduction</p> <p>Week 2 Reading academic articles</p> <p>Week 3 Library database guidance</p> <p>Week 4 Choosing and narrowing a topic</p> <p>Week 5 Outline and Thesis statement</p> <p>Week 6 Writing an Introduction</p> <p>Week 7 Peer editing session</p> <p>Week 8 Summary, paraphrase, citation</p> <p>Week 9 Writing Body sections</p> <p>Week 10 Peer editing session</p> <p>Week 11 Tutorials</p> <p>Week 12 Writing a Conclusion</p> <p>Week 13 Peer editing session</p> <p>Week 14 Presentation skills</p> <p>Week 15 Final presentations</p> <p>※上記の予定は多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初回の授業で指示する。</p> <p>春学期のテーマ：「環境問題」</p>		<p>授業参加 20% 課題 10%</p> <p>期末発表 30% リサーチペーパー 40%</p> <p>※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。</p>	

09年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。</p> <p>Academic Reading/ Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。</p> <p>セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー(1000-2000語)を書き、最終授業で発表します。秋学期は、ドイツ映画をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 履修者はTOEIC 500点を目安とする。 German Studies in English IまたはAcademic Writing I, IIを履修していることが望ましい。 リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。 		<p>Week 1 Course Introduction</p> <p>Week 2 Reading academic articles</p> <p>Week 3 Library database guidance</p> <p>Week 4 Choosing and narrowing a topic</p> <p>Week 5 Outline and Thesis statement</p> <p>Week 6 Writing an Introduction</p> <p>Week 7 Peer editing session</p> <p>Week 8 Summary, paraphrase, citation</p> <p>Week 9 Writing Body sections</p> <p>Week 10 Peer editing session</p> <p>Week 11 Tutorials</p> <p>Week 12 Writing a Conclusion</p> <p>Week 13 Peer editing session</p> <p>Week 14 Presentation skills</p> <p>Week 15 Final presentations</p> <p>※上記の予定は多少内容・順番が変わることがあります。詳細は第1回目に配布のクラスシラバス参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初回の授業で指示する。</p> <p>秋学期のテーマ：「映画」</p>		<p>授業参加 20% 課題 10%</p> <p>期末発表 30% リサーチペーパー 40%</p> <p>※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	上村 敏郎 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的)</p> <p>ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから学科で専門的に学ぶための基礎を学びます。またこの講義を中心として自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究していくために必要とされる知的技術、批判的思考力の基礎を築きます。</p> <p>(重点項目)</p> <p>1) ドイツ語学科の学生として必要不可欠な、ドイツ語圏に関する基礎的知識の修得。</p> <p>2) この講義と同様に第1学期から履修可能な「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野、テーマ選択の手がかりをつかむ。</p> <p>3) 文献の検索方法、論文の一般的な形式や構造、読み方を学び、それに基づいたレポートの作成についての基本的な知識と技術を習得する。</p>		<p>毎回、異なる担当教員が、それぞれのドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義を中心とします。また論文の読み方やレポートの書き方自分のテーマに関連する文献、新聞記事、雑誌記事をどのように検索するかについて学びます。</p> <p>第1回目の授業時に春学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、試験方法などについて説明をします。(必修授業ですから第1回目から出席をとります。)</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせをすることがありますので、毎日必ず確認してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布する。		毎回の講義内容についての「授業レポート」、レポートおよび学期末試験による。	

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	上村 敏郎 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的)</p> <p>ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから学科で専門的に学ぶための基礎を学びます。またこの講義を中心として自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究していくために必要とされる知的技術、批判的思考力の基礎を築きます。</p> <p>(重点項目)</p> <p>1) 特定のテーマについて様々なアプローチから学ぶことによってドイツ語圏への関心を高め、ドイツ語やドイツ語圏について学ぶ意義を確認する。</p> <p>2) この講義と同様に第1学期から履修可能な「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野、テーマ選択の手がかりをつかむ。</p>		<p>秋学期は大きく二つのパートに分かれています。一つ目のパートでは、共通テーマを設定し、そのテーマに毎回異なる担当教員がそれぞれの専門分野の切り口から迫っていきます。</p> <p>二つ目のパートでは、上級生によるインターンシップ報告会や卒業生、外部講師の講演を通じてドイツ語学科での学習が将来どのように生きてくるのかを学びます。</p> <p>第1回目の授業時に秋学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、試験方法などについて説明をします。(必修授業ですから第1回目から出席をとります。)</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせをすることがありますので、毎日必ず確認してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布する		毎回の講義内容についての「授業レポート」、レポートおよび学期末試験による。	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の習得を目標にしました。2年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3年次以降の専門演習に向けた準備をすることを目標にします。</p> <p>「知のスキル」とは、具体的には以下のとおりです。</p> <p>① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成）</p> <p>春学期は、共通テキストの輪読をもとに討論を行います。また、テキストのテーマに基づき、レポートを2度、提出してもらいます。</p> <p>* なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門 I・II」、および「基礎演習 I または II」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマ I：テキスト輪読とディスカッション① 3. 同② 4. 同③ 5. 同④、中間レポート課題提示 6. 同⑤ 7. 同⑥ 8. テーマ II：テキスト輪読とディスカッション① 中間レポート提出 9. 同② 10. 同③ 11. 中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 12. テーマ II：テキスト輪読とディスカッション④ 13. 同⑤ 14. 同⑥ 15. 秋学期の準備（グループ分け、テーマ決定等） <p>* さらに詳しい授業計画は、第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを1回でも出さなかったり、欠席回数が全授業回数の1/3を超えると単位は認めません。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、4～5人ひと組での「グループ発表」と各個人による「個人発表」を行い、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。</p> <p>前半は、教員と学生が相談の上で決めた「ドイツ語圏に係るテーマ」について、グループごとに調査し発表します。</p> <p>後半は、できればグループ発表で扱ったテーマを、各個人がさらに深めるような形で、「個人発表」を行います。</p> <p>* 「グループ発表」「個人発表」の順序は、クラスの状況に応じて変更する可能性もあります。3年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。</p> <p>また、中間、期末の2回、グループ発表、個人発表をまとめるような形でのレポートを提出してもらいます。</p> <p>* なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門 I・II」、および「基礎演習 I または II」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、春学期末レポート返却・講評 2. グループ発表① 3. 同② 4. 同③、中間レポート課題提示 5. 同④ 6. 個人発表① 7. 同② 8. 同③、中間レポート提出 9. 同④ 10. 同⑤ 11. 同⑥ 12. 同⑦、中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 13. 同⑧ 14. 同⑨ 15. 同⑩、まとめ <p>* さらに詳しい授業計画は、第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを1回でも出さなかったり、欠席回数が全授業回数の1/3を超えると単位は認めません。	

09年度以降	通訳特殊演習 a	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は将来、日独語の通訳者や国際会議などを企画運営するコンgres・オーガナイザーなどへの就職を考えている学生を対象に、基本的な通訳スキルの説明と習得するための勉強法を紹介していきます。通訳スキルの基礎である発音の改善や記憶力の鍛錬方法を体験しながら、全体的な語学力の改善も目指していきます。積極的に練習に加わり、問題意識を持って自分のキャリアプランを考えている学生を歓迎します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進捗計画と目標について 2. 通訳者の仕事の紹介 3. 通訳スキルとは何かー目的と練習方法 4. 練習メニューと計画の立て方 5. 記憶力の強化 6. メモリー・レッスンー日本語から日本語へ 7. メモリー・レッスンー日本語からドイツ語へ 8. メモリー・レッスンードイツ語からドイツ語へ 9. メモリー・レッスンードイツ語から日本語へ 10. 語彙力の強化 11. リスpons(反応能力)の改善 12. 内容理解力の強化ー要約(サマライズ) 13. 内容理解力の強化 - パラフレイズ 14. ドイツ語力向上のためのポイント 15. 春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に随時プリントを配布します。		授業への参加度(20%)と学習目標や課題の達成度(80%)を見ながら、総合的に判断して評価します。	

09年度以降	通訳特殊演習 b	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じく、この授業は将来、日独語の通訳者やコンgres・オーガナイザーなどへの就職を考えている学生を対象に、通訳スキルの基礎の習得を目指していきます。春学期からの継続的な履修も念頭に置いて、通訳業務の内容等については補足的な紹介に止めます。秋学期は簡単な材料を使いながら、通訳のための準備の方法と、実際の通訳を模擬的に練習します。練習を通して「訳す」こととはどのようなことなのかを体感してもらい、その経験を参考に自らの語学力のレベルを把握して学習計画を立てられるように指導します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進捗計画と目標について 2. 通訳の準備練習ー日本語から日本語へ 3. 通訳の準備練習ードイツ語からドイツ語へ 4. テキストの分析と理解 5. 要約練習ー日本語からドイツ語へ(1) 6. 要約練習ー日本語からドイツ語へ(2) 7. 要約練習ードイツ語から日本語へ(1) 8. 要約練習ードイツ語から日本語へ(2) 9. 要約練習ー日独双方向へ 10. 要約とパラフレイズの技術 11. 逐次通訳練習ー日本語からドイツ語へ(1) 12. 逐次通訳練習ー日本語からドイツ語へ(2) 13. 逐次通訳練習ードイツ語から日本語へ(1) 14. 逐次通訳練習ードイツ語から日本語へ(2) 15. 秋学期のまとめと目標の達成度について 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は授業時にプリントで配布します。参考文献については必要に応じて紹介していきます。		授業への参加度(20%)と学習目標や課題の達成度(80%)を見ながら、総合的に判断して評価します。	

09年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。</p> <p>【授業の概要】 とりわけ翻訳に焦点を当て、単なる訳読と翻訳の相違を意識しながら、実践的な翻訳演習を行うとともに、それが外国語教育にどう生かせるかを考える。</p>		<p>第1回：翻訳するとはどういうことか、それが外国語学習にどう生かせるかを考える 第2回：日本に関するテーマに基づく実践的演習（1）（社会） 第3回：日本に関するテーマに基づく実践的演習（2）（歴史） 第4回：日本に関するテーマに基づく実践的演習（3）（文化） 第5回：ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（1）（社会） 第6回：ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（2）（歴史） 第7回：ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（3）（文化） 第8回：ドイツに関するテーマに基づく実践的演習（4）（ヨーロッパの中のドイツ） 第9回：国際的なテーマに基づく実践的演習（1）（社会） 第10回：国際的なテーマに基づく実践的演習（2）（歴史） 第11回：国際的なテーマに基づく実践的演習（3）（文化） 第12回：国際的なテーマに基づく実践的演習（4）（日独交流） 第13回：アクチュアルなテーマに基づく実践的演習（1）（環境・エネルギー問題） 第14回：アクチュアルなテーマに基づく実践的演習（2）（移民・多文化共生） 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト】特になし（毎回、プリントを配布） 【参考文献】特になし</p>		授業中の作業や発表、および毎回提出してもらった課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。	

09年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学・高校の授業で与えられたテキストを訳読したと思いますが、「翻訳」はそれとは別物です 正確にドイツ語の内容を理解し、それに相応しい訳文をつくるのが目標です。翻訳という以上は、完成された日本語で、内容がきちんと伝わり、誤解を与えない文章にする必要があります。そのためには、前もってきっちり訳を書いて、細部まできちんと詰める作業が必要になります。 この授業では、ドイツ語で書かれた短めのテキストの2～3段落（1段落5行程度）を毎週みなさんに訳してもらいます。やり方としては、その訳を授業の前の日の夕方までにメールで提出してもらいます。私の方で、皆さんの訳を段落ごとに整理して並べ、教室ではそれをプロジェクターでスクリーンに映し出して、問題点をコメントします。 大変そうですが、これを一学期続けると、ドイツ語のテキストのどこに気をつければいいか、きちんと伝わる日本語に訳すにはどうすればいいか、分かってくると思います。 なお、3回以上、訳を提出しなかった学生は棄権と見なします。</p>		<p>1. 授業の概要と進め方 2. 翻訳することの意味と技術 3. 内容を知っている日本に関するドイツ文を訳す（1） 4. 内容を知っている日本に関するドイツ文を訳す（2） 5. それに相当するドイツに関するドイツ文を訳す（1） 6. それに相当するドイツに関するドイツ文を訳す（2） 7. テーマ1を訳す 8. テーマ2を訳す 9. テーマ3を訳す 10. テーマ4を訳す 11. 新聞記事を訳す（1） 12. 新聞記事を訳す（2） 13. 新聞記事を訳す（3） 14. 新聞記事を訳す（4） 15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
デジタルな形で課題を前もって送付する		12回にわたって翻訳を提出してもらうので、それによって評価を行う。試験やレポートは課さない。	

09年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Ziel des Unterrichts ist zu verstehen, was es heißt ein Firmenpraktikum in Deutschland zu machen und sich darauf vorzubereiten. Dazu sind Hintergrundwissen über Deutschland, die Gesellschaft, deutsche Firmen oder andere Praktikumsstellen nötig. Wir üben Gespräche mit Kollegen und Chefs, Telefongespräche, E-Mails und Geschäftsbriefe schreiben, mit deutschen Computern umzugehen, besonders auch Wirtschafts-Deutsch und andere Anforderungen.</p> <p>Aktive Mitarbeit und Team-Arbeit wird verlangt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung, Unterrichtsplan besprechen 2. Was ist eigentlich ein Praktikum? 3. Lebenslauf 4. Bewerbungs-, Motivation-Schreiben 5. Selbstvorstellung, Homestay 6. Hintergrund-Wissen: über Deutschland 7. Gesellschaft 8. Gesellschaft 9. Firmen, andere Praktikumsstellen 10. Leben in Deutschland 11. Kontakt mit Kollegen, Chefs 12. Verhalten in der Praktikumsstelle 13. Wirtschaftsdeutsch 14. Wirtschaftsdeutsch 15. Zusammenfassung 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピーを配布する。</p>		<p>Aktive Teilnahme, Vortrag oder Report (je nach Absprache mit den Teilnehmern)</p>	

09年度以降	留学準備特殊演習	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の大学で学ぶにはどのような準備が必要でしょうか。またドイツ語力はどの程度必要とされるのでしょうか。また、住居はどうしたら見つけられるか。</p> <p>そんな具体的なことから、留学で何が変わるか、何を学ぶかまで、ドイツ語圏への長期留学を目指している皆さんを対象に、その意義、心構え、事前準備、留学先の町や大学での生活等について、演習形式でインターネット DAAD:Studieren in Deutsch-land: http://www.study-in.de/de/leben/student-life-videos/ を通じて実践的に学びます。</p> <p>また、できればドイツ語圏から獨協に留学している皆さんのお話も聞く機会を設けたいと思います。</p> <p>また、留學生活で必ず聞かれるのは日本のこと、日本の文化です。いろいろな面から質問に答えることができるよう、知識を深めておきましょう。</p> <p>皆さんの積極的な参加を楽しみにしています。</p>		14. ドイツで何を、どう学ぶか 15. 発表準備 16. テーマ別発表 17. テーマ別発表 18. テーマ別発表 19. テーマ別発表 20. DAAD Studieren in Deutschland 21. ドイツの大学と学生生活 22. ドイツの住まい 23. ドイツ諸事情 24. ドイツで困ったら 25. ドイツからの留学生はどうしてる？ 26. 日本を知らない私（1）日本事情 27. 日本を知らない私（2）日本文化 28. ドイツ留学総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
犬養道子『ラインの河辺』中公文庫 1973 築島謙三『「日本人論」の中の日本人（上・下）』講談社学術文庫 1449 講談社 2000年 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ドイツ的とは何か』 他		授業参加度、レポート。また、5回以上欠席の場合は履修中止とみなします。	

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs können Sie das selbstständige Lernen im <i>Tandem</i>-System trainieren. Ziel ist, Hören und Sprechen in der Kommunikation mit deutschen Studierenden zu verbessern.</p> <p>Dazu arbeiten wir zusammen mit Studierenden der Universität Halle. Alle Teilnehmer bekommen eine(n) Partner(in) in Halle. Sie treffen sich einmal in der Woche auf <i>Skype</i>, um eine Aufgabe zu bearbeiten. Das Ergebnis präsentieren Sie in unserem Kurs.</p> <p>Das Thema in diesem Semester ist „Jugendkultur in Deutschland und Japan“. Im Unterricht und in Ihren <i>Skype</i>-Sessions sprechen Sie über Texte, Videos und Musik zu diesem Thema – auf Deutsch und Japanisch.</p> <p>Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: - ein Sprachniveau von mindestens A2.2 haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner <i>skypen</i>.</p> <p>この授業は、教員の許可が必要です。第1回目の授業で（4月13日）履修選抜を行いますので、絶対参加して下さい。</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. <i>Videokonferenz</i> 3. <i>Skype</i>-Sitzung 4. Bericht aus den Tandems: Ihre Partner 5. <i>Videokonferenz</i> 6. Bericht aus den Tandems: Ihr Thema 7. <i>Skype</i>-Sitzung 8. Bericht aus den Tandems: Ihre Zusammenarbeit 9. <i>Videokonferenz</i> 10. Jugendkultur 1: Musik 11. Jugendkultur 2: Text 12. <i>Videokonferenz</i> 13. Jugendkultur 3: Video 14. Jugendkultur 4: Vergleich 15. Kursfazit, Zukunftspläne 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und in den Tandems, die Beiträge auf Plattform und Blog sowie Ihre Präsentation.	

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Kurs ist ein <i>Fachkurs</i>, der gemeinsam mit der Japanologie der Universität Halle veranstaltet wird. Sie können sich mit gesellschaftlichen Fragen in Deutschland und Japan beschäftigen und dabei lernen, mit deutschen Studierenden zusammen an einem kleinen <i>Forschungsprojekt</i> zu arbeiten und das Ergebnis zu präsentieren. (FACHLICHES LERNEN)</p> <p>Alle Teilnehmer bekommen eine(n) Partner(in) in Halle. Sie treffen sich einmal in der Woche auf <i>Skype</i>, um eine Präsentation zu einem Thema zu erstellen.</p> <p>Wir beschäftigen uns mit einem aktuellen Thema, das in der deutschen und japanischen Gesellschaft wichtig ist. Zusammen mit Ihrem Partner entwickeln Sie eine Fragestellung und führen eine kleine Studie dazu durch.</p> <p>Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: - ein Sprachniveau von mindestens B1 haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu <i>skypen</i>.</p> <p>この授業は、教員の許可が必要です。第1回目の授業で（9月28日）履修選抜を行いますので、絶対参加して下さい。</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Einstieg ins Kursthema 3. <i>Videokonferenz</i> 4. Entwicklung einer Fragestellung 5. <i>Videokonferenz</i> 6. Entwicklung des Forschungsdesigns (1) 7. Entwicklung des Forschungsdesigns (2) 8. Entwicklung des Forschungsdesigns (3) 9. <i>Videokonferenz</i> 10. Pilotstudie (1) 11. Pilotstudie (2) 12. Auswertung (1) 13. Auswertung (2) 14. <i>Videokonferenz</i> 15. Kursfazit, Zukunftspläne 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und die Zusammenarbeit mit Ihrem Partner in Halle, die Beiträge auf Plattform und Blog sowie Ihre Präsentation.	

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 ドイツ語教育を中心に、外国語教育や言語教育について「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、より効果的な外国語学習とは何かを考え模索することを目標とする。 外国語学習における「学習ストラテジー」を全体の大きなテーマとする。</p> <p>【授業の概要】 ドイツ語を学ぶことの意味や目的、実際の教育／学習方法について、単に理論や方法論を知るだけでなく、演習に参加する学生の外国語学習のプロセスを振り返ったり、それに関する意見交換をしながら、演習形式で学ぶ。 また、具体的な練習、たとえば翻訳者や通訳者がプロになるための過程で行う練習法などを、実際に教室で行って見て、それぞれの練習法がどのようにドイツ語教育に役立つかを体験してもらおう。</p>		<p>第1回：導入 第2回：これまで経験してきた外国語の学び方 第3回：外国語教育に求められるものと目標設定 第4回：ドイツ語の「特殊性」（その歴史的な回顧と現状） 第5回：ドイツ語の学習法（主たる学習法のタイプ） 第6回：聞き取りの練習（1） （シャドウイングによるアプローチ） 第7回：聞き取りの練習（2）（その他の練習法） 第8回：テキストの展開に関する実際練習（1） （アンティシペーションの役割） 第9回：テキストの展開に関する実際練習（2） （各種の練習法の紹介） 第10回：テキストの展開に関する実際練習（3） （各練習法の実際練習） 第11回：テキストの展開に関する実際練習（4） （各種練習法の評価） 第12回：その他の実際練習（1） （背景知識としての社会的テーマ） 第13回：その他の実際練習（2） （背景知識としての歴史的テーマ） 第14回：その他の実際練習（3） （背景知識としての世界的テーマ） 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 特になし（毎回、プリントを配布） 【参考文献】 特になし</p>		授業中の作業や発表、および毎回提出してもらった課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。	

09年度以降	ドイツ語概論 a	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義はドイツ語を始めて学習する皆さんが、あるいはこれまで学習してきた皆さんが、文法の授業とは違った視点からドイツ語を観察し、体験してもらおうとするものです。</p> <p>子供は言語を学ぶとき、文字や文法から学ぶではありません。そうではなく、まず音を聞いて、それを繰り返すことで学んでいきます。もともと言語は、音を通して互いに意思を伝達することからはじまったのです。</p> <p>そこで、春学期は、主としてドイツ語の音（音韻）とその発音（音声）に重点を置いて、日本語や英語などと比べながら、その音の違いや特徴、ヨーロッパ言語の言語の歴史的關係などを概観しながら、ドイツ語そのものを改めて見つめてみようとするものです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語とはどういう言語か 2. ドイツ語の音と文字（母音） 3. ドイツ語の音と文字（母音） 4. ドイツ語の音と文字（子音） 5. ドイツ語の音と文字（子音） 6. ドイツ語の発音（日本語とドイツ語） 7. ドイツ語の発音（英語とドイツ語） 8. ドイツ語の発音（イントネーション） 9. ドイツ語の発音（アクセント） 10. 復習とまとめ 11. ドイツ語の歴史概観（1） 12. ドイツ語の歴史外観（2） 13. ヨーロッパの中のドイツ語 14. ラテン語、フランス語とドイツ語 15. 英語、オランダ語とドイツ語 <p>（これは予定であり、内容の変更もあり得ます）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. I.Albrecht, U. Hirschfeld, Y.Kakinuma: Einführung ind die deutsche Phonetik 獨協大学外国語教育研究所 2007年 2. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004年 		毎回の質問シートなどの提出と総合テストによる。	

09年度以降	ドイツ語概論 b	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は少し専門的にドイツ語を見ていくことにしましょう。ドイツ語という言語の歴史的流れ、ドイツ語を勉強していて、わからない事柄に出会ったとき、疑問がわいたときに、これを自分で解決するにはどうしたらよいでしょうか。</p> <p>その手段には何があるのか。ドイツには方言がたくさんあるというが、それはなぜか、またどのように分布しているのか。ドイツ語を言語学的に研究する方法は、また何が研究対象となりうるのか。また、日本語との違いはどんな点に見られるのか。</p> <p>このように、ドイツ語をめぐる疑問、不思議はいろいろな分野に及んでいます。この学期では皆さんから積極的に疑問や質問を提示していただいて、皆でこれを考えながら、ドイツ語にもっと近づいていきたいと考えています。</p> <p>どうぞ積極的な参加をお願いします。楽しい講義にしましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語の文字の成立と発展 2. 疑問に答える（1）辞書について 3. 疑問に答える（2）文法について 4. 標準ドイツ語の成立と正書法 5. ドイツ語の標準発音と方言 6. ドイツ語の標準発音と方言 7. 外国語とドイツ語（1） 8. 外国語とドイツ語（2） 9. ドイツ語の地名 10. ドイツ語の人名 11. 探求するところ（1）ドイツ語の調査・研究 12. 探求するところ（2）ドイツ語の調査・研究 13. 日本語とドイツ語の言語表現 14. 日本語とドイツ語の言語表現 15. 復習とまとめ <p>（これは予定であり、内容の変更もあり得ます）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』朝日出版社 2004年 2. 風間喜代蔵『言語学の誕生』岩波書店 		毎回の質問シートなどの提出と総合テストによる。	

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 a	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> いわゆるゲーテ時代のさまざまな人間観について吟味し、できるだけ現代の人間観、人間が抱える諸問題などに関連づけながら考察することを目標とします。</p> <p><講義概要> イマヌエル・カントのエッセイ「啓蒙とは何か？」を読んで当時の人間観について概観したのちに、同時代の他の文学作品などから人間に関する描写、考察、分析をしている箇所を拾い出して読んでいきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カント『啓蒙とは何か』を読む 3. カント『啓蒙とは何か』を読む／「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 4. 「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 5. ゲーテ『若きヴェルターの悩み』を読む 6. 「ヴェルター的悩み」とは？ 7. シラー『招霊妖術師』を読む 8. 「啓蒙」の時代とオカルト・ブーム 9. ゲーテ『ファウスト』を読む 10. 人間を「調合」？する 11. 『ファウスト』第二部、最終場面について 12. 『魔笛』を見る 13. 『魔笛』を読む 14. クニッゲ『人間交際術』を読む 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストについては、必要に応じてコピーで配布します。また、参考文献については、必要に応じて指示します。</p>		<p>毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 b	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツ語で書かれた代表的な文学作品を、いわゆるジャンルごとについていくつか取り上げ、ジャンルとしての特徴などを検討しながら、楽しむ（深読みする？）ことを目標とします。</p> <p><講義概要> 右記の通り、ドイツ語で書かれたメルヒェン、詩、小説、ドラマの各ジャンルから代表作品を選び、内容を概観した上で、いろいろな視点から解釈（つまり、深読み）して行きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. メルヒェン (1) 3. メルヒェン (2) 4. メルヒェン (3) 5. ドイツの詩 (1) 6. ドイツの詩 (2) 7. ドイツの詩 (3) 8. ドイツの詩 (4) 9. ドイツの小説 (1) 10. ドイツの小説 (2) 11. ドイツの小説 (3) 12. ドイツのドラマ (1) 13. ドイツのドラマ (2) 14. ドイツのドラマ (3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストについては、必要に応じてコピーで配布します。また、参考文献については、必要に応じて指示します。</p>		<p>毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏の言語 a	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、これまで一通りドイツ語文法を学んできた皆さんが、より深くことばの世界を知るために、基礎となる概念を解説します。</p> <p>春学期は、語や文がどのように成り立っているのかという疑問から出発して、具体的な例を見ながら、一緒に考えていきたいと思ひます。</p> <p>用例は、主にドイツ語を取り上げますが、日本語や英語とどこが違うのか、あるいは似ているのかという視点を持つことが大切です。他言語との比較を通じて、ドイツ語の文法を捉え直す機会にしたいと思ひます。皆さんの積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 言語学の対象と各分野 3. 形態論 1 形態論の対象 4. 形態論 2 形態素 5. 形態論 3 語形変化 6. 形態論 4 語形成 7. 形態論 5 語形成 8. 形態論 6 語形成 9. 統語論 1 統語論の対象 10. 統語論 2 統語構造 11. 統語論 3 構成素 12. 統語論 4 語順 13. 統語論 5 格 14. 統語論 6 主題役割 15. 春学期のまとめ <p>(講義の内容は、受講者の関心等に応じて、多少変更する可能性もあります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内でレジュメと資料プリントを配布します。		毎回の講義内容についての質問シート (30%)、随時の課題の提出 (20%)、最終回に実施する筆記試験 (50%) に基づいて総合的に評価します。	

09年度以降	ドイツ語圏の言語 b	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期には主に語や文の内部構造を観察しましたが、秋学期には語や文の示す意味や実際の運用の仕方を取り上げます。</p> <p>春学期の講義内容を理解していることを前提にお話ししますので、なるべく通年で履修してください。</p> <p>秋学期も、たくさんの用例を見ながら、実際に皆さんに考えてもらう形で進めていきます。疑問に思ったことがあれば、どんなことでも授業内で積極的に発言してください。それによって、参加者全員の理解がどんどんと深まるような講義にしたいと思ひます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 春学期の復習 3. 意味論 1 意味論の対象 4. 意味論 2 意味関係 5. 意味論 3 意味素性 6. 意味論 4 プロトタイプ 7. 意味論 5 述語と項 8. 意味論 6 述語と項 9. 意味論 7 述語と項 10. 語用論 1 語用論の対象 11. 語用論 2 言語行為 12. 語用論 3 言語行為 13. 語用論 4 含意 14. 語用論 5 含意 15. 秋学期のまとめ <p>(講義の内容は、受講者の関心等に応じて、多少変更する可能性もあります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内でレジュメと資料プリントを配布します。		毎回の講義内容についての質問シート (30%)、随時の課題の提出 (20%)、最終回に実施する筆記試験 (50%) に基づいて総合的に評価します。	

09年度以降	ドイツ語圏の文学 a	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーテの『ファウスト』第一部を原文で読む1 (火2)</p> <p>「ゲーテの『ファウスト』を知らずしてドイツ語を学んだと言うなかれ」とはある高名なドイツ文学者の名言だ。たしかに、ゲーテ (Johann Wolfgang Goethe, 1749-1832) の『ファウスト』 („Faust“) は、ドイツ語を学ぶ者が一度はそのドイツ語原文を覗いておくべき作品だ。というのも、教科書でお目にかかる「学習用ドイツ語」ではなく、本物のドイツ語テキストを読むためには、文法事項をはじめ学ぶべきことは多い。それらがたっぷり詰まった宝庫がゲーテの『ファウスト』なのだ。しかもこの作品は、日本から遠く離れた西洋のドイツで 200 年も前に成立したにもかかわらず、現代の私たちに力強く語りかけてくる。そのひとつが西洋近代の学問、そして科学がもたらすさまざまな問題への問いだ。そこで、西洋近代に由来する科学的世界像とその成果に囲まれて生きる私たちの視点から、近代的科学者ファウストの苦悩に着目し、『ファウスト』第1部からいくつかの場面を抜粋してドイツ語原文でゆっくりと丁寧に読み進める。</p>		01. 文章ドイツ語入門 1 02. 文章ドイツ語入門 2 03. Nacht 1 04. Nacht 2 05. Nacht 3 06. Nacht 4 07. Nacht 5 08. Nacht 6 09. Nacht 7 10. Vor dem Tor 1 11. Vor dem Tor 2 12. Vor dem Tor 3 13. Vor dem Tor 4 14. Vor dem Tor 5 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】ドイツ語原文のプリントを配付する。</p> <p>【参考文献】ゲーテ (相良守峯訳)『ファウスト第一部』(岩波文庫 赤 406-2) は、原文と対照するのに適している。</p>		講義内容の理解と参加状況を毎回送信のリアクションメールで評価 (60%)、それに 2 回の小テストの評価 (40%) を合わせて総合的に評価する。	

09年度以降	ドイツ語圏の文学 b	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーテの『ファウスト』第一部を原文で読む2 (火2)</p> <p>「ゲーテの『ファウスト』を知らずしてドイツ語を学んだと言うなかれ」とはある高名なドイツ文学者の名言だ。たしかに、ゲーテ (Johann Wolfgang Goethe, 1749-1832) の『ファウスト』 („Faust“) は、ドイツ語を学ぶ者が一度はそのドイツ語原文を覗いておくべき作品だ。というのも、教科書でお目にかかる「学習用ドイツ語」ではなく、本物のドイツ語テキストを読むためには、文法事項をはじめ学ぶべきことは多い。それらがたっぷり詰まった宝庫がゲーテの『ファウスト』なのだ。しかもこの作品は、日本から遠く離れた西洋のドイツで 200 年も前に成立したにもかかわらず、現代の私たちに力強く語りかけてくる。</p> <p>そこで、西洋近代に由来する科学的世界像とその成果に囲まれて生きる私たちの視点から、近代的科学者ファウストの苦悩に着目し、『ファウスト』第1部からいくつかの場面を抜粋してドイツ語原文でゆっくりと丁寧に読み進めよう。『ファウスト』はエピソードの積み重ねによる戯曲なので、どこからでも読めるし、拾い読みも可能だ。従って、秋学期の履修も、春学期の受講を前提としない。</p>		01. 文章ドイツ語入門 1 02. 文章ドイツ語入門 2 03. Studierzimmer [I] 1 04. Studierzimmer [I] 2 05. Studierzimmer [I] 3 06. Studierzimmer [I] 4 07. Studierzimmer [I] 5 08. Studierzimmer [II] 1 09. Studierzimmer [II] 2 10. Studierzimmer [II] 3 11. Studierzimmer [II] 4 12. Studierzimmer [II] 5 13. Studierzimmer [II] 6 14. Studierzimmer [II] 7 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】ドイツ語原文のプリントを配付する。</p> <p>【参考文献】ゲーテ (相良守峯訳)『ファウスト第一部』(岩波文庫 赤 406-2) は、原文と対照するのに適している。</p>		講義内容の理解と参加状況を毎回提出のリアクションメールで評価 (60%)、それに 2 回の小テストの評価 (40%) を合わせて総合的に評価する。	

09年度以降	ドイツ語圏の思想 a	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。</p> <p>具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。</p> <p>またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。</p> <p>時代を追っていくのにじっくり急がない、できればカタツムリみたいにゆっくりとするつもりですが、しかし今学期もせめてカントまでは触れます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 古典について 3. 古典について 4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント 5. ルネッサンス 6. デカルトの思想 7. カントの思想(1) 8. カントの思想(2) 9. カントの思想(3) 10. カントの思想(4) 11. ドイツ観念論(1) 12. ドイツ観念論(2) 13. ドイツ観念論(3) 14. ドイツ観念論の問題点 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		試験と平常点	

09年度以降	ドイツ語圏の思想 b	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもり、という春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもいいです。</p> <p>具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれるはずです（といえますか、それくらい大学生なら「読め」という意味）。</p> <p>↑を繰り返すと、話はドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及します。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。</p> <p>時代を追っていくのに急がないですが、今学期もハイデガーやベンヤミンの思想に触れられたらよいかと思います。秋の方が春より過激に展開しますが、怖がらないでください。お待ちしております。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. ロマン派 3. ヘーゲルとマルクス 4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス 5. 『資本論』と宗教批判 6. マルクス主義と現代思想(1) 7. マルクス主義と現代思想 (2) 8. ニーチェ(1) 9. ニーチェ(2) 10. ニーチェ(3) 11. ハイデガー(1) 12. ハイデガー(2) 13. ハイデガー(3) 14. 現代の思想 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		試験と平常点	

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） a	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
初回授業時にて指示する。		初回授業時にて指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業にて提示する。		初回授業時にて指示する。	

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） b	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
初回授業時にて指示する。		初回授業時にて指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業時にて指示する。		初回授業時にて指示する。	

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） a	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（思想）「考える」ことを考える—哲学とは何か？（火3） 一般的には「考えられたこと」を「思想」という。それでは「考えられたこと」とは何だろう。この問いに答えるためには「考える」とはどのようなことを問わねばなるまい。それはドイツではしばしば「哲学とは何か」という問いで論じられてきた。20世紀半ばまでハイデガーと並んでドイツ哲学を代表していたヤスパーズ（Karl Jaspers, 1883–1969）の思索も、この問いをもって始まる。そこで、日本ではもっぱら実存主義の哲学者として知られるこの思想家が1953年に著した„Einführung in die Philosophie“（『哲学入門』）の第1章„Was ist Philosophie?“（「哲学とは何か？」）を購読することで、「考える」ことについて考えてみよう。 これはきわめて平易明快なドイツ語による論述的文章だ。文法的にも論理的にも精確な分析と論旨の把握に重点を置いて精読すれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。そのためにも、原語の理解を妨げる訳読はしない。</p>		01. 論述テキスト解読のための文法 1 02. 論述テキスト解読のための文法 2 03. 序論 04. 科学と哲学 1 05. 科学と哲学 2 06. 誰もが哲学する 1 07. 誰もが哲学する 2 08. 誰もが哲学する 3 09. 哲学を定義する試み 1 10. 哲学を定義する試み 2 11. 古代ギリシア・ローマの哲学理解 1 12. 古代ギリシア・ローマの哲学理解 2 13. 永遠の哲学 1 14. 永遠の哲学 2 15. まとめと展望	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】プリントを配付する。 【参考文献】中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』（白水社）2003（¥1,600＋税）		授業での発言を含む参加状況（30%）と毎回提出のリアクションペーパー（30%）および随時の小テスト（40%）の総合評価。	

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） b	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（思想）「考える」ことを考える—哲学の根源（火3） 一般的には「考えられたこと」を「思想」という。それでは「考えられたこと」とは何だろう。この問いに答えるためには「考える」とはどのようなことを問わねばなるまい。それはドイツではしばしば「哲学とは何か」という問いで論じられてきた。20世紀半ばまでハイデガーと並んでドイツ哲学を代表していたヤスパーズ（Karl Jaspers, 1883–1969）の思索も、この問いをもって始まる。そこで、日本ではもっぱら実存主義の哲学者として知られるこの思想家が1953年に著した„Einführung in die Philosophie“（『哲学入門』）の第2章„Ursprung der Philosophie“（「哲学の根源」）を購読することで、「考える」ことについて考えてみよう。 これはきわめて平易明快なドイツ語による論述的文章だ。文法的にも論理的にも精確な分析と論旨の把握に重点を置いて精読すれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。そのためにも、原語の理解を妨げる訳読はしないで、ドイツ語の文法と論理と意味の分析に力を入れる。なお、受講にあたって、春学期開講の『「考える」ことを考える—哲学とは何か？』の履修を前提とはしない。</p>		01. 論述テキスト解読のための文法 1 02. 論述テキスト解読のための文法 2 03. 「始まり」と「根源」との違い 04. 哲学を促す3つの動機 1 05. 哲学を促す3つの動機 2 06. 哲学を促す3つの動機 3 07. 限界状況 1 08. 限界状況 2 09. 安心できない世界 1 10. 安心できない世界 2 11. 安心できない世界 3 12. 挫折の経験 13. 自分になる経験 14. 3つの動機とコミュニケーション 15. まとめと展望	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】プリントを配付する。 【参考文献】中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』（白水社）2003（¥1,600＋税）		授業内容の理解と参加状況を毎回送信のリアクションメールで評価（60%）、それに2回の小テストの成績（40%）を合わせて総合的に評価する。	

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想）a	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（文学）ドイツ近代の三大詩人を読む（水2）</p> <p>ドイツ語の詩には、ドイツ語の特徴が凝集しているから「ドイツ詩を読まずして、ドイツ語を習ったというべからず」と心得るべきだ。その独特のリズムや母音と子音の響きから、具象的なイメージに抽象的な概念、それらをつなぐさまざまな比喩的表現や修辞など、さらに、文法的構造までもが合わさって、すばらしい言語の世界なのだ。詩のドイツ語の醍醐味を味わうためにも、原文のドイツ語について文法的分析もふくめて、その言語世界を読み解こう。そうすれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語を読み解く楽しさも分かるだろう。原語の理解をしばしば妨げる訳読はしないほうがいい。</p> <p>18世紀後半から19世紀初頭にかけてはドイツ近代詩の黄金時代だ。この時代を代表する三大詩人ゲーテ（Johann Wolfgang Goethe, 1749–1832）、シラー（Friedrich Schiller, 1759–1805）、ヘルダーリン（Friedrich Hölderlin, 1770–1843）の作品をいくつか読んで、「ドイツ語を習った」と言えるようになろう。</p>		<p>01. 文章ドイツ語とドイツ詩入門 1</p> <p>02. 文章ドイツ語とドイツ詩入門 2</p> <p>03. Goethe 1</p> <p>04. Goethe 2</p> <p>05. Goethe 3</p> <p>06. Goethe 4</p> <p>07. Schiller 1</p> <p>08. Schiller 2</p> <p>09. Schiller 3</p> <p>10. Schiller 4</p> <p>11. Hölderlin 1</p> <p>12. Hölderlin 2</p> <p>13. Hölderlin 3</p> <p>14. Hölderlin 4</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】プリントを配付する。</p> <p>【参考文献】中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』（白水社）2003（¥1,600＋税）</p>		<p>授業内容の理解と参加状況を毎回送信のリアクションメールで評価（60%）、それに2回の小テストの成績（40%）を合わせて総合的に評価する。</p>	

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想）b	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（文学）『枕草子』のドイツ語訳を読む（水2）</p> <p>日本最初の随筆文学とされる『枕草子』は、日本文学の古典中の古典だ。われわれは日本語を母語とするからには、清少納言のこの作品を知らずして、ドイツ語を学ぶ資格なしといってよい。平安中期、996年頃から1008年頃の間成立したこの作品には、日常生活や四季の自然を観察し、草木鳥虫や歌枕を記した「ものづくし」、中宮（皇后）に仕えた作者が宮廷社会を振り返った回想など、ドイツには見られない事物や心情が名文で描き出されている。それらはドイツ語の世界でどのように理解され、どのように表されるのだろうか？ この点に着目して、Helmut Bode 版の „Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon“ (1975) から名場面を読むことにより、日本がドイツに伝わる時の変容の様相もわかるだろう。日本の文物やものの見方、感じ方、考え方をドイツ語でどのように表現するのかに着目して、日本語の原文とも比較対照してみよう。そうすれば、日本語とドイツ語の間には必然的に意味のずれが生じることもわかるはずだ。訳読の日本語の意味はドイツ語原文の意味とは異なるから、訳読はやめよう。「学習用ドイツ語」ではない本物のドイツ語を文法的にも意味的にも精確に分析することで、ドイツ語そのものの理解を目指そう。それによって初めて日本をドイツ語で語る困難を知るとともに、それを克服する楽しさも味わえるというものだ。</p>		<p>01. 文章ドイツ語入門 1</p> <p>02. 文章ドイツ語入門 2</p> <p>03. Schreiben 1</p> <p>04. Schreiben 2</p> <p>05. Januar 1</p> <p>06. Januar 2</p> <p>07. Januar 3</p> <p>08. Blüten 1</p> <p>09. Blüten 2</p> <p>10. Ärgerliche Dinge 1</p> <p>11. Ärgerliche Dinge 2</p> <p>12. Vögel</p> <p>13. Über die Liebe</p> <p>14. Zahnschmerzen</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】プリントを配付する。</p> <p>【参考文献】中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ一改訂版一』（白水社）2003（¥1,600＋税）</p>		<p>授業内容の理解と参加状況を毎回送信のリアクションメールで評価（60%）、それに2回の小テストの成績（40%）を合わせて総合的に評価する。</p>	

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Denken Menschen, die unterschiedliche Sprachen sprechen, anders? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Und wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum, zum Beispiel Österreicher und Berliner, oder Jugendliche? Und was ist „Kiezdeutsch“?</p> <p>In diesem Kurs lernen Sie einige mögliche Antworten auf diese Fragen kennen.</p> <p>Gleichzeitig können Sie lernen, Hauptaussagen und Standpunkte in deutschsprachigen Texten zu Sprache zu verstehen, darüber zu berichten und zu diskutieren.</p> <p>Wir lesen in diesem Kurs kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.</p> <p>Jede Stunde gibt es eine kleine Hausaufgabe. Im Semester gibt es vier Minitests und einen großen Test.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Sprache und Denken (1) 3. Sprache und Denken (2) 4. Sprache und Denken (3) 5. Sprache und Denken (4) 6. Sprachenvielfalt (1) 7. Sprachenvielfalt (2) 8. Sprachenvielfalt (3) 9. Sprachmittlung (1) 10. Sprachmittlung (2) 11. Mehrsprachigkeit (1) 12. Mehrsprachigkeit (2) 13. Mehrsprachigkeit (3) 14. Mehrsprachigkeit (4) 15. Abschlusstest, Kursfazit 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		aktive Mitarbeit (30%), Hausaufgaben (20%), Minitests (20%), Abschlusstest (30%)	

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Denken Menschen, die unterschiedliche Sprachen sprechen, anders? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Und wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum, zum Beispiel Österreicher und Berliner, oder Jugendliche? Und was ist „Kiezdeutsch“?</p> <p>In diesem Kurs lernen Sie einige mögliche Antworten auf diese Fragen kennen.</p> <p>Gleichzeitig können Sie lernen, Hauptaussagen und Standpunkte in deutschsprachigen Texten zu Sprache zu verstehen, darüber zu berichten und zu diskutieren.</p> <p>Wir lesen in diesem Kurs kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.</p> <p>Jede Stunde gibt es eine kleine Hausaufgabe. Im Semester gibt es vier Minitests und einen großen Test.</p>		<p>Kursablauf (Änderungen vorbehalten)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung des Kurskonzepts, Vorstellung Ihrer Interessen 2. Frühkindlicher Spracherwerb (1) 3. Frühkindlicher Spracherwerb (2) 4. Frühkindlicher Spracherwerb (3) 5. Frühkindlicher Spracherwerb (4) 6. Fremdsprachenlernen (1) 7. Fremdsprachenlernen (2) 8. Fremdsprachenlernen (3) 9. Fremdsprachenlernen (4) 10. Sprachvarietäten (1) 11. Sprachvarietäten (2) 12. Regional- und Minderheitssprachen (1) 13. Regional- und Minderheitssprachen (2) 14. Regional- und Minderheitssprachen (3) 15. Abschlusstest, Kursfazit 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		aktive Mitarbeit (30%), Hausaufgaben (20%), Minitests (20%), Abschlusstest (30%)	

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では2年以上のドイツ語学習経験を持つ学生を対象に、論文講読のための文法(Lesegrammatik)について考えていきます。人文・社会科学分野の研究論文などで使われる文体には、専門用語以外にも学術論文独特の特徴があります。その文体を読みこなすためには、専門用語の構造を知るための造語法や、文成分の順番などを決める文構造の規則に関する知識が必要です。春学期は主に Wortgrammatik を中心に練習していきます。		<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマについての導入 – Lesegrammatik と Lesestrategie 2. Wissenschaftssprache の特徴 3. es の用法について (1) 4. es の用法について (2) 5. es の用法に関する練習 6. 造語論 – 合成語と派生語 7. 接頭辞と接尾辞による造語 8. 名詞の造語 9. 形容詞の造語 10. 動詞の造語 11. 造語に関する練習(1) 12. 造語に関する練習(2) 13. 分詞構文 14. 分詞構文と文体 15. 春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は授業時にプリントで配布します。参考文献は必要に応じて授業の中で紹介していきます。		授業への参加度(20%)と課題などの達成度(80%)を見ながら、総合的に判断して評価します。	

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じく、学術論文の講読に必要な文法知識について考えていきます。秋学期は主に Satzgrammatik を中心に、副文をよく伴う動詞や名詞、形容詞などに着目し、それらの指標から論理展開を想定する方法などを練習していきます。		<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマについての導入 – Satzbauplan について 2. 文成分と順番 3. 主語、目的語、添加語の配置 4. 前置詞 5. 前置詞付加語 6. 語順に関する練習(1) 7. 語順に関する練習(2) 8. 副文を伴う動詞 9. 機能動詞 10. 付加語文を伴う名詞 11. 付加語文を伴う形容詞 12. 副文を伴う動詞、名詞、形容詞に関する練習(1) 13. 副文を伴う動詞、名詞、形容詞に関する練習(2) 14. Lesegrammatik についてのまとめ 15. 秋学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は授業時にプリントで配布します。参考文献は必要に応じて授業の中で紹介していきます。		授業への参加度(20%)と課題などの達成度(80%)を見ながら、総合的に判断して評価します。	

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想）a	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ文学の小説は長くて読みにくいという印象をもつひとが多いようです。筋の面白さより作品の中で取り交わされる会話についていけなかったり、描かれているイメージが思い浮かばなかったりすることが、その原因のひとつでしょう。しかし、いくつもの作品は映画化されているので、テキストをきちんと読み、それと前後して映画化されたバージョンとを比較すると、分かりやすいでしょう。聞き取りの練習にもなります。なお映画には字幕つきを用いるので、だいたいの流れは捉えやすいのですが、きちんと聞き取る練習もします。</p> <p>春学期は、分かりやすい作品を取り上げますが、あまり長くないテキスト部分を必ず予習をしてもらうことが参加条件です。授業で当てられてから辞書を引くのはお断りです。</p> <p>また、授業の場で皆さんの反応や意見を聞きます。前もって当てておき、学期中に一度は必ず少しまとまった発言をしてもらいます。授業に積極的に参加してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と進め方 2. 取り上げる作品の概要 3. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (1) 4. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (2) 5. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (3) 6. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (4) 7. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (5) 8. 中間のまとめと議論 (レポート提出) 9. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (6) 10. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (7) 11. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (8) 12. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (9) 13. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (10) 14. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (11) 15. 授業のまとめと議論 (レポート提出) 	
		評価方法	
<p>必要なテキストと資料をコピーして配布。 2回続けて欠席した学生には、コピーを再配布しない。</p>		<p>2回のレポート、ならびに授業内で求めた意見を評価対象とする。</p>	

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想）b	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>進め方は春学期と同じですが、ことなるタイプの作品を取り上げます。 ただ、聞き取ることに、より多くの重点を置きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と進め方 2. 取り上げる作品の概要 3. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (1) 4. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (2) 5. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (3) 6. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (4) 7. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (5) 8. 中間のまとめと議論 (レポート提出) 9. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (6) 10. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (7) 11. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (8) 12. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (9) 13. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (10) 14. テキストを読み、映画のその該当箇所を見る (11) 15. 授業のまとめと議論 (レポート提出) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>必要なテキストと資料をコピーして配布。 2回続けて欠席した学生には、コピーを再配布しない。</p>		<p>2回のレポート、ならびに授業内で求めた意見を評価対象とする。</p>	

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想）a	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 読解力の涵養を目指します。また、ドイツ語力を磨く機会にしてもらえればと思います。Grimm童話集への研究的関心が高まれば一層好ましいです。</p> <p>概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm“を様々な版で比較対照します。これにより、編纂過程で被った変化の跡をたどります。 まずは短い作品で、古い正書法と比較方法に慣れましょう。</p>		<p>1. ガイダンス 2. ～14. 扱う作品例: Die weiße Taube Goldne Gans Marienkind 15.まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Kurt Schmidt: Die Entwicklung der Grimmschen Kinder- und Hausmärchen テキストは随時コピーで配布します。</p>		定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。	

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想）b	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 読解力の涵養を目指します。また、ドイツ語力を磨く機会にしてもらえればと思います。Grimm童話集への研究的関心が高まれば一層好ましいです。</p> <p>概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm“を様々な版で比較対照します。これにより、編纂過程で被った変化の跡をたどります。 この学期では、童話集の成立史に重点を置きます。</p>		<p>1. ガイダンス 2. ～14 中心になる作品例: Prinz Schwan Froschkönig Prinzeßin Mäusehaut Gänsemagd 15.まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Heinz Rölleke: Es war einmal (2011) テキストは随時コピーで配布します。</p>		定期試験 60%、平常授業における発表や貢献度を 40%で評価します。	

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Deutsche Texte lesen und verstehen</p> <p>Zwischendurch machen wir kleine Partnerinterviews.</p> <p>Ab und zu singen wir deutsche Lieder.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Sich vorstellen, Interviews.Referate verteilen. 2. DIE BUERGSCHAFT von Friedrich Schiller. S. 2/3 3. „ S. 4/5 und Originalgedicht von SCHILLER 4. Referate zur Artussage in Deutschland LOHENGRIN S. 7/8 5. „ S. 9/10 6. „ S. 11/12 7. Referate zur GAENSEMAGD 8. „ S. 37/38 9. „ S. 39/40 10. „ S. 41 und Originalmaerchen 11. Referate zum TANNHAEUSER 12. „ S. 21/22 13. „ S. 23/24 14. „ S. 25/26 15. „ S. 27/28 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>GESCHICHTEN ZUM DEUTSCHLERNEN von Diana Beier Taguchi und Tetsuji Kubo.</p>		<p>Referate und schriftliche Hausaufgaben</p>	

09年度以降	テキスト研究 (語学・文学・思想) b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ über aktuelle Entwicklungen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen, usw.</p> <p>Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Internet, Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Statistiken, ...</p> <p>Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes. 		<p>1. Stunde: Einführung, Allgemeines</p> <p>2. - 6. Stunde: Lektüre von ca. 3 Texten. Erklärung der Textstruktur, Grammatik, Wörter und Ausdrücke.</p> <p>7. Stunde: Zusammenfassung zum bisher Gelesenen</p> <p>8. - 14. Stunde: Lektüre von ca. 3 Texten und Statistiken. Erklärung der Textstruktur, Grammatik, Wörter und Ausdrücke.</p> <p>15. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		Mitarbeit im Unterricht, Abschlusstest	

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 a	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン主義時代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ルネサンス・宗教改革期 3 同上 4 同上 5 三十年戦争・バロック期 6 同上 7 同上 8 啓蒙主義時代 9 同上 10 同上 11 ロマン主義時代 12 同上 13 同上 14 グリムのメルヒェン 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポートおよび毎回の授業アンケートにより評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 b	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19世紀後半 3 同上 4 世紀転換期 5 同上 6 モダニズム 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 同上 11 ナチズムと芸術 12 同上 13 現代へ：新たな芸術の展開 14 同上 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>講義で扱ったテーマに関するレポートおよび毎回の授業アンケートにより評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏の美術 a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義ではドイツ語圏の美術を大きく西洋美術史の流れの中で捉え、その特質を浮き彫りにすることを目的としている。</p> <p>前期ではまず古代ギリシャの人間表現の系譜を辿り、それが北方美術、とりわけドイツ・ルネサンスの芸術においてどのように復活してくるのか、その大きな流れをつかむ。それと同時に並行して15世紀末から16世紀始めにドイツ美術に登場する風景の問題についても考えたい。</p> <p>前期の講義をベースとして、後期に個別の作品研究を行うため、通年で受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. ギリシャの人体表現 I 3. ギリシャの人体表現 II 4. ギリシャの人体表現 III 5. ヨーロッパ美術における Akt の定義 6. 北方美術における裸体表現 I 7. 北方美術における裸体表現 II 8. デューラーの銅版画『アダムとイブ』(1504年) 9. 風景画の誕生 I 10. 風景画の誕生 II 11. デューラーの風景素描 I 12. デューラーの風景素描 II 13. ドナウ派の風景表現 I 14. ドナウ派の風景表現 II 15. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜授業中に指示する。		評価方法：期末の筆記試験によって評価。	

09年度以降	ドイツ語圏の美術 b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>後期にはドイツ・ルネサンス美術の作品を概観した後、巨匠であるアルブレヒト・デューラー (1471-1528年) の芸術の個別の作品研究から、ドイツ美術の特質を浮き彫りにすることを試みる。</p> <p>前期におこなった講義の知識を前提とするので、通年で受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. ドイツ・ルネサンスの芸術 I 3. ドイツ・ルネサンスの芸術 II 4. ドイツ・ルネサンスの芸術 III 5. アルブレヒト・デューラーの生涯 6. デューラー芸術の概観 7. 個別作品研究① 8. 個別作品研究② 9. 個別作品研究③ 10. 個別作品研究④ 11. 個別作品研究⑤ 12. 個別作品研究⑥ 13. 個別作品研究⑦ 14. 個別作品研究⑧ 15. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜授業中に指示する。		評価方法：期末の筆記試験によって評価。	

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。（音楽理論の予備知識は特になくても大丈夫です。）</p> <p>春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品もあるかも知れませんが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p>		<p>1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16 世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17 世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. J. S. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽 10. テレマンとベルリン楽派 11. 前古典派の音楽 12. J. ハイドンの音楽 13. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 14. W. A. モーツァルトの声楽作品 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		10 回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。平常点および筆記試験の結果をもとに評価します。	

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。</p> <p>秋学期には、18 世紀終わり頃から現在までに書かれた音楽を、主に「作曲家とその作品」という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等についても理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p>		<p>1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家の作品等を取りあげることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベートーヴェン（1） 2. ベートーヴェン（2） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. J. シュトラウス II 世と R. シュトラウス 10. ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派 11. 20 世紀中葉以降のドイツ語圏の音楽 12. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 13. ドイツ語圏の国歌 14. ドイツ語圏の民謡、ポップス 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		10 回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。平常点および筆記試験の結果をもとに評価します。	

09年度以降	ドイツ圏の演劇 a	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>演劇を授業で取り上げると、どうしても戯曲を読むことに終わりがちになります。また舞台映像は数少ない上に、舞台の一部しか撮っていないために、必ずしも演劇の実際を伝えてくれません。こうした理由から、舞台と重なるところの多い映画を取り上げます。「演じる」ということ、起承転結などは舞台と重なりますし、日本語字幕があれば内容理解の一助となります。また映画は、現代ドイツの日常生活や生活感情に関して、さまざまな情報を与えてくれます。</p> <p>4本ほどの映画を見ていきますが、その映画に関するテキスト情報を読んだり、ドイツ映画界の様子に関するテキストも取り上げます。</p> <p>教室では、なるべく対話を大切にしたいので、この授業に出る学生は積極的な発言をしてください。</p> <p>また、2本くらいを見終わったら、レポートを提出してもらいますから、きちんと出席して映画をきっちり見てください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の概要と進め方。 2. ドイツ映画 (1-1) 3. ドイツ映画 (1-2) 4. ドイツ映画 (1-3) 5. ドイツ映画 (2-1) 6. ドイツ映画 (2-2) 7. ドイツ映画 (2-3) 8. 中間まとめと討論 9. ドイツ映画 (3-1) 10. ドイツ映画 (3-2) 11. ドイツ映画 (3-3) 12. ドイツ映画 (4-1) 13. ドイツ映画 (4-2) 14. ドイツ映画 (4-3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてドイツ語のプリントを配布する。		やや短めの中間レポート、そして最後に長めのレポートを提出してもらい、それで評価する。試験は行わない。	

09年度以降	ドイツ語圏の演劇 b	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ほぼ春学期と同じコンセプト。</p> <p>秋学期に取り上げるのは、主としてごく最近話題作であり、それを見ながら個々の映像と会話を話題にし、また全体の構造や伏線などに目を向けていく。</p> <p>やはり秋学期も2回のレポートを提出してもらおう予定である。</p> <p>授業中にさまざまな質問をするが、積極的に意見を述べてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の概要と進め方。 2. ドイツ映画 (1-1) 3. ドイツ映画 (1-2) 4. ドイツ映画 (1-3) 5. ドイツ映画 (2-1) 6. ドイツ映画 (2-2) 7. ドイツ映画 (2-3) 8. 中間まとめと討論 9. ドイツ映画 (3-1) 10. ドイツ映画 (3-2) 11. ドイツ映画 (3-3) 12. ドイツ映画 (4-1) 13. ドイツ映画 (4-2) 14. ドイツ映画 (4-3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
作品に関する関係資料をコピーして配布する。		やや短めの中間レポート、そして最後に長めのレポートを提出してもらい、それで評価する。試験は行わない。	

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 a	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、＜想像力×歴史・社会×制度＞をテーマとします。映画を通して、ドイツ社会の歴史的事象がどのように描き出されているのかを分析するのが目的です。たとえば歴史を扱った映画作品は、＜歴史＞そのものではないし、芸術家の＜想像力＞のみの賜物でもありません。制作された時代の＜制度＞=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知ることが、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。講義でとりあげる作品には、比較的よく知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画作品をメインに考察しつつも、文献資料などで情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を“疑って”みてください。そして作者が歴史や社会をそう描いた「意図」を理解し、受けとってあげてください。作品には必ず、制作者の意図・社会の影響・制度や技術・資金の限界からくる制約があります。作品を楽しみつつも、映像メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。</p>		<p>＜映画を通してドイツ社会を「読む」＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. イメージの政治 3. 文化の政治性① 4. 文化の政治性② 5. 好ましいナチス？ ① 6. 好ましいナチス？ ② 7. “娯楽”化し、消費される負の歴史遺産 8. 学生運動からテロへー現代ドイツ、若者の主張？① 9. 学生運動からテロへー現代ドイツ、若者の主張？② 10. 政治の装置としての劇場・ミュージアム 11. 文化施設は「敷居が高い」のからくり 12. 監視国家ー東西ドイツの心の壁① 13. 監視国家ー東西ドイツの心の壁② 14. 現代ドイツにおける多文化共生と表現の自由 15. ドイツのメディア文化政策と対外文化政策の課題 <p>*春・秋学期とも、受講者の関心により、内容を変更したり、順番が前後する可能性があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。	

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 b	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今学期は＜想像力×近代国家×制度＞をテーマに、ドイツ語圏を中心として、ヨーロッパの成立事情を「読む」ことを試みます。ドイツ語学科の授業をとってみようかな、と思ってシラバスをめくっている皆さんは、きっと「ドイツ」や「ヨーロッパ」について知りたいな、と思っていることでしょう。でも、その「ドイツ」や「ヨーロッパ」が、実は自明の存在ではなかったとしたら……？</p> <p>この講義では、現代の欧州やドイツの政治事情と映画の世界とを「行ったり来たり」します。映画では、政治的権力を持ち、人々の「視線」を集める使命を与えられた人物たちに焦点を当てます。そもそも「視線」を集める、ということには、どのような政治的効果があるのでしょうか？</p> <p>文化や芸術は、極めて政治的な領域です。近代国家ドイツの成立史をおさえた上で、現代の欧州の政治を見れば、日本では「お手本」のように言及されることの多い欧州の国々が経験してきた／している動揺、そしてそこに住む普通の人々の政治への地道な関与こそが、「歴史」を作っており、現在もその試行錯誤の途上にあることが分かってきます。正解のない政治の世界は、真面目な話のみで構成されているわけではありません。偶然・欲望・笑い・失言が溢れる、ツッコミどころの多い世界だったりします。その面白さを味わいながらも、その先に、周りの世界を自分で「批判」する為の立脚点を築いていって下さい。</p>		<p>＜映画を通してヨーロッパ成立事情を「読む」＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. 現代欧州の政治とドイツの課題 I 3. 現代欧州の政治とドイツの課題 II 4. 領邦国家から近代国家へ 5. 神聖ローマ帝国 6. オーストリア=ハンガリー帝国① 7. オーストリア=ハンガリー帝国② 8. 対外文化政策とパブリックディプロマシー 9. 国家のイメージ戦略 10. 視線の操作とポリティクスー文化施設の制度化 11. ミュージアムという装置と思想① 12. ミュージアムという装置と思想② 13. バイエルン王国① 14. バイエルン王国② 15. 「文化国家」の罠ーナチスへの道 <p>※一年を通して、映画を素材としつつ、作品の背景となる歴史や政治制度をすべて解説しながら進めていきますので、ドイツ語やドイツについてはまったく知らないけれど、ちょっと興味がある、というような学生の受講を歓迎します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）b	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
初回授業にて指示する。		初回授業にて指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業にて指示する。		初回授業にて指示する。	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）a	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) ドイツの人気絵本作家 Janosch の人物およびその活動について知る。</p> <p>2) 「Janosch 版グリム童話」を読み、パロディーの意味について考える。</p> <p>3) authentisch なテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。</p> <p>講義概要</p> <p>ドイツの人気絵本作家 Janosch (1931-) が書いた <i>Janosch erzählt Grimm's Märchen</i> を、オリジナルのグリム童話と比較しながら読む。</p> <p>彼のパロディー精神はどこから来て、どこへ行くのか？そこに見えるのは「さかさまの世界」？それとも、ただの謎？</p>		<p>1. ガイダンス：テキスト、授業方針、評価方法等について</p> <p>2. Janosch の人物および活動に関する講義</p> <p>3. テキストの講読＋解説 (1)</p> <p>4. テキストの講読＋解説 (2)</p> <p>5. テキストの講読＋解説 (3)</p> <p>6. テキストの講読＋解説 (4)</p> <p>7. テキストの講読＋解説 (5)</p> <p>8. テキストの講読＋解説 (6)</p> <p>9. テキストの講読＋解説 (7)</p> <p>10. テキストの講読＋解説 (8)</p> <p>11. テキストの講読＋解説 (9)</p> <p>12. テキストの講読＋解説 (10)</p> <p>13. テキストの講読＋解説 (11)</p> <p>14. テキストの講読＋解説 (12)</p> <p>15. まとめ＋討論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト> Janosch: <i>Janosch erzählt Grimm's Märchen</i>. Weinheim (Beltz) 1991 (コピーを配布)</p> <p><参考文献> 適宜紹介する。</p>		<p>学期末に行う筆記試験、平常点および授業への参加度に基づいて総合的に評価を決定する。</p>	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>2015年度は、W.A. モーツァルト（1756～1791）に焦点をあてます。春学期には、神童期から 1780 年頃までのモーツァルトの生涯と作品、モーツァルトの訪れた都市等を扱いたいと思います。文献には、音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もあります。予め了解しておいてください。</p> <p>なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。</p> <p>注意事項：毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。</p>		<p>春学期には、Rudolf Nykrin, <i>Wolfgang Amadeus Mozart: Spuren zu Leben und Musik</i>, 2005 の 6～69 ページを毎回 5～6 ページずつ読みます。余裕があれば、別の書籍や HP 等からの文章も読んでいきたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、導入 2. Wolfgang 3. Der Vater 4. Die Mutter 5. Die Schwester 6. Frühe Reisen 7. Frühe Reisen 8. Italien 9. In Salzburg 10. Paris 11. Paris 12. Das Bäsle 13. Aloisia Weber 14. Endlich frei für die Kunst 15. まとめ <p>上記の予定は、みなさんの関心や進度等に応じて変更することもあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教材はコピーで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に適宜紹介します。</p> <p>辞書は、小学館の『独和大辞典』を使ってください。</p>		<p>筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。</p> <p>積極的な授業参加を重視します。</p> <p>10 回以上の出席が単位取得の前提となります。</p>	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、皆さんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>2015年度は、W.A. モーツァルト（1756～1791）に焦点をあてます。秋学期は、1781 年にウィーンを本拠地としてのモーツァルトの生涯と作品、後世に与えた影響などを扱いたいと思います。文献には、音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もあります。予め了解しておいてください。</p> <p>なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。</p> <p>注意事項：①毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。②春学期と連続した内容の文章を読みます。春学期に学習したモーツァルトの生涯や作品等についての基礎知識をもっていることを前提として授業を進めますので、なるべく通年で受講してください。</p>		<p>秋学期には、Rudolf Nykrin, <i>Wolfgang Amadeus Mozart: Spuren zu Leben und Musik</i>, 2005 の 70～127 ページを毎回 5～6 ページ程度読みます。余裕があれば、別の書籍や HP 等からの文章も読んでいきたいと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、春学期の内容の復習 2. Das Leben in Wien 3. Das Leben in Wien 4. Bewegte Jahre 5. Arbeit, Not, Erschöpfung 6. Arbeit, Not, Erschöpfung 7. Die letzte Lebensperiode 8. Die letzte Lebensperiode 9. Requiem, Gift und Armengrab 10. Das musikalische Genie 11. Die Musik 12. Die Musik 13. Kleiner Leitfaden zum Zuhören 14. Mozarts großes Werk 15. まとめ <p>上記の予定は、みなさんの関心や進度等に応じて変更することもあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教材はコピーで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に適宜紹介します。</p> <p>辞書は、小学館の『独和大辞典』を使ってください。</p>		<p>筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。</p> <p>積極的な授業参加を重視します。</p> <p>10 回以上の出席が単位取得の前提となります。</p>	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）b	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本文化を語るドイツ語（水3）</p> <p>私たちが、ドイツ語で日本について発信し、私たち自身について語るとき、ドイツ語母語者の語る内容には含まれないことを語らざるをえない。「味噌汁」はドイツ語で Misosuppeつまり「みそスープ」という。たしかに両者には「流動食」という共通点がある。しかし、「味噌汁」は食事の最後の頃に「飲む」のに、「スープ」は最初に「食べる」(essen)。口にする順番や「飲みもの」「食べもの」の違いがあるのだ。はたして「味噌汁」は Misosuppe か？</p> <p>ここでは、日本の伝統文化を説明するドイツ語のテキストとして、ドイツの日本美術史家 Sschaarschmidt-Richter の „Gartenkunst in Japan“ (『日本の庭園芸術』)を読む。多用された写真図版は、われわれがドイツ語を理解する助けになる。このテキストは叙述的文章だから、文章ドイツ語の文法構造と意味の把握に力を入れ、日本語とドイツ語における意味のずれに着目する。そのためにも訳読はしない。それは、この意味のずれを覆い隠して原語の理解を妨げるからだ。「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 01. 文章テキスト解読のための文法 1 02. 文章テキスト解読のための文法 2 03. 小堀遠州と南禅寺庭園 1 04. 小堀遠州と南禅寺庭園 2 05. 小堀遠州と南禅寺庭園 3 06. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 1 07. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 2 08. 大徳寺孤篷庵（だいとくじこほうあん）の庭園 3 09. 竜安寺石庭 1 10. 竜安寺石庭 2 11. 竜安寺石庭 3 12. 竜安寺石庭 4 13. 竜安寺石庭 5 14. 日本庭園と禅 15. おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】 Irmtraud Schaarschmidt-Richter: <i>Gartenkunst in Japan</i>, München 1999 (プリント) 2. 中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社) 2003 (1680円)</p>		<p>講義内容の理解と参加状況を毎回送信のリアクションメールで評価 (60%)、それに2回の小テストの評価 (40%) を合わせて総合的に評価する。</p>	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）a	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では「ドイツ語圏の音楽都市めぐり」をテーマにドイツ・オーストリア・スイスの「音楽都市」を歴史的に紹介します。最初にルネサンスに最盛期を迎えたミュンヘンの町から始めて、それぞれの町に立ち寄りつつ、音楽史的に重要な時期と音楽家を紹介します。扱う音楽史はルネサンス期、バロック期、前期古典派、ウィーン古典派、ロマン派、リアリズム、現代音楽です。都市と音楽家は右側の「授業計画」を参照してください。</p> <p>また、この講義ではドイツ語の構文解析にも焦点をあてます。一語一句の意味を正確に考えながらの精読を心がけます。テキストの内容を理解した後は語学力向上の問題も教材に掲載されています。</p> <p>音楽鑑賞をしつつ、「音楽の歴史」を楽しみながら旅に出かけましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. München — ラッソー — 3. Leipzig — バッハ — 4. Berlin und Potsdam — フリードリヒ大王 — 5. Salzburg — モーツァルト — 6. Dresden — ヴェーバー — 7. Düsseldorf — シューマン・メンデルスゾーン — 8. Weimar — リスト — 9. Zürich — ヴァーグナー — 10. Wien — マーラー — 11. Donaueschingen — 現代音楽 — 12. 個人研究発表と講評 13. 演劇（オペラ又はオペレッタ）鑑賞 1 14. 演劇（オペラ又はオペレッタ）鑑賞 2 15. まとめと討論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Kirsten Beisswenger・山路朝彦共著『ドイツ語圏音楽都市めぐり』（白水社、2012年4月20日第4刷）（テキストは各自購入のこと）</p>		<p>試験 70%，平常点 30%（授業回数の3分の2以上の出席者を対象評価とし、授業態度や授業での発言等によって評価する。）</p>	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）b	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では「ドイツ語圏のクラシック映画」をテーマに1930年代以降の映画史において重要な作品を扱います。映画史において1920年代後半は無声映画からトーキー映画に徐々に切り替わる節目となる時代でした。当時の映画界は様々な試行錯誤や実験を重ねながら、後に映画史上の名作として語り継がれる芸術としての映画を作りました。数ある映画の中から講義で扱う映画作品は右側の「授業計画」を参照してください。トーキー映画の原点に触れることは、その後の最新作までの映画の視座をさらに拡大することにもなるでしょう。</p> <p>また、この講義ではドイツ語の構文解析にも焦点をあてます。一語一句の意味を正確に考えながらの精読を心がけます。各映画の一部も講義中に扱う予定です。</p> <p>映画鑑賞をしつつ、「ドイツ語圏のクラシック映画」を楽しみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. Der blaue Engel 1930 3. Die Drei von der Tankstelle 1930 / 1955 4. Die Dreigroschenoper 1931 / 1963 5. M - Mörder unter uns - 1931 6. Berlin - Alexanderplatz 1931 / 1980 7. Der Kongreß tanzt 1931 / 1955 8. Mädchen in Uniform 1931 / 1958 9. Emil und die Detektive 1931 / 1954 / 2001 10. Das blaue Licht 1932 11. Sissi 1938 / 1955 / 1956 / 1957 12. 個人研究発表と講評 13. 映画（クラシック映画又は最新作映画）鑑賞 1 14. 映画（クラシック映画又は最新作映画）鑑賞 2 15. まとめと討論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Joe Hembus / Christa Bandmann : KLASSIKER DES DEUTSCHEN TONFILMS 1930-1960 Wilhelm Goldmann Verlag, München 1980 (コピーを配布)</p>		<p>試験 70%，平常点 30%（授業回数の3分の2以上の出席者を対象評価とし、授業態度や授業での発言等によって評価する。）</p>	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir befassen uns in diesem Unterricht mit Texten (Zeitungen, Zeitschriften, Internet, Radio, eventuell Film) zu aktuellen kulturellen Themen, vorzüglich aus dem deutschen Sprachraum.</p> <p>Hauptsächliche Ziele sind neben der Wortschatzerweiterung und dem Erwerb von Lesetechniken auch die Förderung der Fähigkeit, über aktuelle Themen auf Deutsch zu sprechen und zu diskutieren.</p>		<p>Die Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt bzw. von den Teilnehmern selbst gewählt. Themen bisher waren zum Beispiel (vielen Dank an die Teilnehmerinnen 2014!)</p> <p>1. bis 3. Unterrichtseinheit: Modernes Theater und Migranten</p> <p>4. bis 6. Unterrichtseinheit: Modernes Ballett, Modern Dance</p> <p>7. bis 9.: Synästhesie</p> <p>10. bis 12. Unterrichtseinheit: Musik in Zeiten von Big Data</p> <p>13. bis 15. Unterrichtseinheit: Joseph Beuys</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt.		Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lesen ist eine wunderbare Möglichkeit, als Lerner (speziell in einer nicht-deutschsprachigen Umgebung) ziemlich einfach selbständig seine Sprachkenntnisse zu erweitern und zu erhalten. Voraussetzung ist aber eine Lesetechnik, die über das Wort-für-Wortübersetzen mit Hilfe eines Wörterbuchs hinausgeht, denn das mühsame Herumstochern in einem Text nimmt dem fleißigsten Studenten die Freude am Lernen. Lesestrategien sind aber nicht angeboren, die muss man lernen. Wir werden verschiedene Techniken, wie man sinnvoll an einen Text herangeht, kennenlernen und ausprobieren. Die zweite Voraussetzung für gewinnbringendes Lesen sind Texte, die anspruchsvoll und interessant, aber nicht zu schwierig sind. Gelesen werden Essays und Artikel zu aktuellen Themen aus Kunst und Kultur. Wochenzeitung <i>Die Zeit</i>, aus Tageszeitungen oder dem Internet.</p>		<p>1. bis 3. Unterrichtseinheit: Islamophobie, Pegida</p> <p>4. bis 6. Unterrichtseinheit: Fotografie (Israel)</p> <p>7. bis 9. Unterrichtseinheit: Kunst und Dissidenten, Ai Weiwei</p> <p>10. bis 12. Unterrichtseinheit: Licht</p> <p>13. bis 15. Unterrichtseinheit: Kulturelles Erbe und Krieg</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt.		Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ美術を代表する作家を選び、その生涯と主要作品について学ぶ 2) テキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるための練習も行う。 3) まとまったドイツ語テキストを読む楽しみと達成感を味わう。		1. テキストおよび全体についての概略の説明。授業方針、評価方法等についての説明 2. 講読＋解説（1） 3. 講読＋解説（2） 4. 講読＋解説（3） 5. 講読＋解説（4） 6. 講読＋解説（5） 7. 講読＋解説（6） 8. 講読＋解説（7） 9. 講読＋解説（8） 10. 講読＋解説（9） 11. 講読＋解説（10） 12. 講読＋解説（11） 13. 講読＋解説（12） 14. 講読＋解説（13） 15. まとめ＋討論	
講義概要 <p>テキストに Kindlers Malerei Lexikon を使用しながら、様々な時代のドイツ語圏を代表する芸術家の生涯と代表作について学びたい。基本テキストの他に、随時扱う作家に関連する展覧会カタログや専門書からのテキストの抜粋を教材として加えてゆく。</p> <p>テキストの訳は分担を決めないで、アットランダムにあててゆきます。必ず予習して授業に臨んで下さい。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kindlers Malerei Lexikon (プリントを配布)		学期末に行う筆記試験、および授業への参加度に基づいて評価を決定する。	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）a	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ニーチェ（1844-1900）の処女作『悲劇の誕生』（Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik 1872）のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、ヨーロッパの芸術・文化の底流の一端に触れるのと同時に、ドイツ語の読解力が飛躍的に向上することを目的とする。</p> <p>古代ギリシアにおける「アポロ的なもの」と「ディオニソス的なもの」という同書の中心概念を把握しつつ、この両極性の対立的協同の最大の果実ともいべきギリシア悲劇の誕生と死について、また彼の芸術観について個別の関連作品の解説やビデオ鑑賞などを織り交ぜながら考察して行きたい。</p> <p>（予習の際には辞書だけでなく、岩波文庫などの各種翻訳書も手掛かりにして、なるべく自分なりの言葉で訳してもらいたい。）</p>		<p>1回目 ガイダンス及び概説</p> <p>2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定、ビデオ鑑賞を含む）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>原典講読に必要な部分のみプリント配布する。</p> <p>副読本として：ニーチェ著・秋山英夫訳『悲劇の誕生』（岩波文庫、1966年）</p>		<p>期末試験（辞書持込可、60%）を基に平常点（40%）を加味して総合的に評価する。平常点も平素の授業態度と発表を含めた学習への取組度を基に総合的に評価する。</p>	

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化）b	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続いて、ニーチェの『悲劇の誕生』のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、ヨーロッパの芸術・文化の源流の一端に触れるのと同時に、ドイツ語の読解力が更に飛躍的に向上することを目的とする。</p> <p>春学期に得られた内容の理解に基づいて「美的現象としてなら我々は依然として生存に耐えることができる」という彼のいわゆる「芸術家の形而上学」について、要するに実人生にとっての芸術・文化の意義について、悲劇の誕生と死と再生という本書の主題に添って個別の関連作品の解説やビデオ鑑賞などを織り交ぜながら考察して行きたい。</p> <p>（予習の際には辞書だけでなく、岩波文庫などの各種翻訳書も手掛かりにして、なるべく自分なりの言葉で訳してもらいたい。）</p>		<p>1回目 ガイダンス及び春学期の内容の概要説明</p> <p>2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定、ビデオ鑑賞を含む）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>原典講読に必要な部分のみプリント配布する。</p> <p>副読本として：ニーチェ著・秋山英夫訳『悲劇の誕生』（岩波文庫、1966年）</p>		<p>期末試験（辞書持込可、60%）を基に平常点（40%）を加味して総合的に評価する。平常点も平素の授業態度と発表を含めた学習への取組度を基に総合的に評価する。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代のドイツ語圏における現代社会の実情と文化に関する基礎的な知識を養い、この地域に対する関心を深めることを目的としています。</p> <p>講義概要 政治・経済だけではなく、様々な角度からドイツ、そしてオーストリア、スイスを概観し、時事問題、現代事情への理解を深めていきます。</p> <p>また現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。</p> <p>講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ドイツ語圏の基本情報 3 ドイツの地形と自然 4 オーストリア、スイスの地形と自然 5 ドイツの政党/政治体制 6 オーストリア、スイスの政党/政治体制 7 EUや世界との関係 8 ライフスタイル 9 ドイツの環境政策 10 ドイツ語圏の経済/産業 11 メディア 12 食文化① 13 食文化② 14 まとめ 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 春学期に学んだことをベースに、ドイツにおける現代事情に関する知識をさらに深めることを目的としています。</p> <p>講義概要 春学期とは異なった角度から現代事情を考察し、理解を深めます。</p> <p>また春学期に引き続き、現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。</p> <p>講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ドイツ戦後の歴史① ベルリンの壁崩壊まで 3 ドイツ戦後の歴史② ドイツ統一と統一後 4 若者① 教育制度 5 若者② 6 若者③ 7 家族① 女性 8 家族② 家族形態 9 社会福祉 10 環境政策 11 宗教 12 移民問題① 13 移民問題② 14 まとめ 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 a	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 ハプスブルク君主国は中世から第一次世界大戦の終わりまでヨーロッパに存在した国家である。ここでは便宜上「ハプスブルク君主国」と呼んでいるが、実は19世紀になるまで正式な国家名称は存在することもなく、とらえどころのないあいまいな国家であった。その支配領域も中核となったオーストリア諸邦に加え、現在のチェコ、スロヴァキア、ハンガリー、スロヴェニア、クロアチア等々、多岐にわたり、言語構成も民族構成も多様であった。春学期は、ドイツ語圏の歴史過程に大きな影響を与えていたハプスブルク君主国を中心に、神聖ローマ帝国解体までのドイツ語圏の歴史について扱う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神聖ローマ帝国解体までのドイツ語圏の歴史について説明できる。 ・ 近代以前のドイツ語圏の歴史が現在のわれわれに与える影響について説明出来る。 ・ ハプスブルク君主国がどのような国家なのか説明できる。 		<p>第1回 授業ガイダンス、</p> <p>第2回 総論「ハプスブルク君主国の特色」</p> <p>第3回 婚姻政策による拡大</p> <p>第4回 オーストリア家</p> <p>第5回 宗教改革</p> <p>第6回 三十年戦争</p> <p>第7回 ヴェストファーレン体制</p> <p>第8回 第二次ウィーン包囲とその記憶</p> <p>第9回 国事詔書と継承戦争</p> <p>第10回 マリア・テレジア</p> <p>第11回 ヨーゼフ2世の啓蒙改革</p> <p>第12回 ヨーゼフ主義</p> <p>第13回 ナポレオン戦争と神聖ローマ帝国解体</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>本授業計画は予定であり、変更の可能性があります。 正式な講義内容については初回ガイダンスにて配布します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門』昭和堂、2013年；増谷英樹・古田善文『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011年；南塚信吾編『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社、1999年；その他講義の中で適宜指示する。</p>		<p>期末レポートによって評価するが、平常授業における課題などの実績も評価対象とする。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 b	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 春学期に引き続き、秋学期では19世紀以降のドイツ語圏の歴史について扱っていく。本講義には二つの軸がある。ハプスブルク君主国の解体過程とドイツ国民（帝国）の形成過程である。多様な民族構成を持っていた近代のハプスブルク君主国について学ぶことは、移民の背景を持つ人々が増加傾向にある現代のドイツ語圏の社会を考える上でも、あるいは我々自身の社会を考えていく上でも非常に重要なことである。また、それまでバラバラの領邦国家に分散していたドイツ国民がいかにして誕生したのか、いかにしてドイツ国民というアイデンティティを生み出したのかについても考えていく。理解を深めるため、春学期と継続して履修することが好ましい。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀以降のドイツ語圏の歴史について説明できる。 ・ ドイツ語圏の国家が民族問題についてどのように対応したのか説明できる。 ・ ドイツ国民の形成過程について説明できる。 		<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 19世紀までのドイツ語圏の歴史概観</p> <p>第3回 ウィーン体制</p> <p>第4回 1848年革命（I）</p> <p>第5回 1848年革命（II）</p> <p>第6回 ドイツ国民とは何か</p> <p>第7回 ドイツ帝国の誕生</p> <p>第8回 ドイツ帝国誕生の裏側：その時、ハプスブルクは</p> <p>第9回 第一次世界大戦（I）</p> <p>第10回 第一次世界大戦（II）</p> <p>第11回 ワイマール共和国</p> <p>第12回 ポスト・ハプスブルクの時代</p> <p>第13回 ナチズムの時代</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>本授業計画は予定であり、変更の可能性があります。 正式な講義内容については初回ガイダンスにて配布します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門』昭和堂、2013年；そのほか講義の中で適宜指示する</p>		<p>期末レポートによって評価するが、平常授業における課題などの実績も評価対象とする。</p>	

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要</p> <p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat (社会国家) という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>春学期は、EU最大の経済大国であるドイツを対象を絞り、その政治や経済の仕組みを概観します。その上で、現代ドイツの政治・経済が抱えている問題と課題を考えます。</p> <p>授業では、ドイツの政治・経済・社会の基本的仕組みを押さえます。最後に東ドイツ問題、EU との関係にも触れます。日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——講義の概要 2. 憲法 3. 政治システム (1) 立法機関、行政機関 4. 統治システム (2) 司法機関、中央銀行 5. 政党 6. 選挙制度 7. 経済システム (1) 社会的市場経済 8. 経済システム (2) 労使関係 9. 経済システム (3) 産業組織 10. 社会保障 (1) 特徴 11. 社会保障 (2) 歴史と現状 12. マスメディア 13. 東ドイツ問題 14. EUとドイツ 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。		学期末試験 (70%) と平常点 (30%) により評価する。	

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の概要</p> <p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat (社会国家) という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>秋学期は、社会国家の根幹をなしている社会政策・労働政策に目を向け、これを個別領域ごとに具体的に上げて検討していきます。日本を含めた国際比較を意識しながら問題の背景や展望について考えていきます。</p> <p>授業の内容</p> <p>(職業) 教育分野、雇用分野、失業や貧困、ワークライフバランスなどを取り上げます。日本でも大きな問題になっているテーマですので、参加者には時事問題にアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——講義の概要 2. 教育制度 (1) 教育制度全般 3. 教育制度 (2) 職業教育 4. 教育制度 (3) 高等教育 5. 教育制度 (4) 教育予算と機会均等 6. 雇用システムと労使関係 (1) 導入 日本の状況 7. 雇用システムと労使関係 (2) 労働協約自治 8. 雇用システムと労使関係 (3) 共同決定 9. 教育制度と雇用制度の関係 日独比較 10. 労働市場 (1) 労働市場の特徴 11. 労働市場 (2) 近年の変化——ハルツ改革 12. ワークライフバランス (1) 13. ワークライフバランス (2) 14. 社会国家の歴史と現状 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の 20 年』ミネルヴァ書房、2014 年。		学期末試験 (70%) と平常点 (30%) により評価する。	

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 a	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀は「戦争の世紀」とも言われ、2度にわたる世界的規模での戦争を経験しました。その経験を踏まえて人々は21世紀には「平和な時代」を期待したはずでした。ところが、相変わらず戦争はなくなっています。そこで私たちはもう一度20世紀の戦争を分析・検討する意義があるのではないのでしょうか。特に、第一次世界大戦の敗北がヒトラーの台頭を招いたといわれるドイツの歴史では、2つの戦争は相互に密接な関連を持っています。そのため、ドイツの中学校・高等学校ではかなりの時間(1~2年間)を割いて20世紀の歴史を学習しています。</p> <p>春学期は、ドイツ語圏における国民意識の覚醒から第一次世界大戦を経てヴァイマル共和国に至る経緯と国民意識の変遷に焦点を当てます。戦争は自然災害のようにある日突然「勃発」するものではありません。また、戦争が終わったのち、特に敗戦国では戦争をどのように認識するかが、その後の歴史に大きな影響を与えることとなります。「開戦」に至るまでの政治的背景や戦後の国民意識を分析することによって、歴史的事象に対する皆さんの視野が広がることを目指しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 国民国家と民族問題(1)ドイツ 3. (2) オーストリア 4. 第一次世界大戦 (1) 映像で見る世界大戦 5. (2) 戦争プロパガンダ 6. (3) 開戦をめぐる議論 7. (4) 「戦争の大義」と戦争目的 8. (5) 戦争の終結と革命 9. ヴェルサイユ講和条約(1)ヨーロッパの再編 10. (2)戦争責任と賠償問題 11. (3)戦争責任と被害意識 12. ヴァイマル共和国 (1)敗戦と革命・敗戦責任論 13. (2)共和国憲法と民主主義 14. (3)司法と民主主義 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布、参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業でのコメント、課題、期末レポートなどで評価します。※原則として、4回以上欠席した学生は、成績評価対象となりません。	

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 b	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀は「戦争の世紀」とも言われ、2度にわたる世界的規模での戦争を経験しました。その経験を踏まえて人々は21世紀には「平和な時代」を期待したはずでした。ところが、相変わらず戦争はなくなっています。そこで私たちはもう一度20世紀の戦争を分析・検討する意義があるのではないのでしょうか。特に、第一次世界大戦の敗北がヒトラーの台頭を招いたといわれるドイツの歴史では、2つの戦争は相互に密接な関連を持っています。そのため、ドイツの中学校・高等学校ではかなりの時間(1~2年間)を割いて20世紀の歴史を学習しています。</p> <p>秋学期は、ドイツのナチズムに焦点をあてて、国民がナチに傾倒し、熱狂的に支持した背景を考察していきます。そのうえで第二次世界大戦後、ドイツではナチズムと戦争の歴史をどのように認識しようとしているのかを、日本と比較しながらみていきたいと思います。また、ユダヤ人の迫害から虐殺への経緯については、少し詳しくみていく必要があります。</p> <p>ドイツの歴史の授業は、事項や年号の暗記ではなく、事項や史料の分析に重点がおかれています。そこでこの授業では、できるだけドイツの中学生や高校生の学ぶ歴史の授業を意識して、学生が自分で考え、史料を分析できる力を養うことを目指したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ファシズムの台頭(1)ヨーロッパのファシズム運動 3. (2)ナチ党への支持 4. (3)ヴァイマル共和国の崩壊 5. 「ユダヤ人」への迫害(1)反ユダヤ主義の系譜 6. (2)反ユダヤ主義から反セム主義へ 7. (3) ホロコーストへの道程 8. ヒトラー神話: (1)プロパガンダと国民 9. (2)ドイツの対外政策 10. ナチズムに対する受容と抵抗(1)命令と服従 11. (2)国防軍の犯罪 12. (3)抵抗運動 13. 日独歴史意識の比較 (1)「荒れ野の40年」をめぐる 14. (2)ドイツの歴史教育 15. ドイツにおける戦後の歴史認識の変遷 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布、参考文献は必要に応じて適宜指示します。		授業でのコメント、課題、期末レポートなどで評価します。※原則として、4回以上欠席した学生は、成績評価対象となりません。	

09年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学ぶこと。 春学期は主に、身近な環境問題について取り上げる。</p> <p>講義概要 ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。 そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 様々な環境問題をテーマとして取り上げ、各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。</p> <p>テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的に捉えることに重きをおきます。また日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。履修人数によっては、ディスカッションなども取り入れていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 環境問題・環境政策の概要 3. ドイツ語圏の地理的特徴 4. ドイツ環境行政の歴史としくみ 5. 各主体 (緑の党を始めとする政党・企業・NGO・市民など)の役割 6. 廃棄物・リサイクル(1) 7. 廃棄物・リサイクル(2) 8. 河川/水域における環境問題 9. 食と環境(有機農業) 10. エコツーリズム 11. 環境教育 12. エコマーク 13. 地域、自治体の試み 14. まとめ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業(ガイダンス)に説明をします。	

09年度以降	ドイツ語圏の地域・環境問題 b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学ぶこと。 秋学期は主に、地球規模の環境問題について取り上げる。</p> <p>講義概要 ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。 そしてドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 様々な環境問題をテーマとして取り上げ、各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。</p> <p>テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかありません。この授業では環境問題を総体的に捉えることに重きをおきます。また日本との比較なども織り交ぜながら、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。履修人数によっては、ディスカッションなども取り入れていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 東ドイツの環境問題 3. 南北問題 4. 地球環境問題とは(1) 森林伐採、酸性雨、 5. 地球環境問題とは(2) (オゾン層、気候変動問題) 6. 国際交渉と日本の役割(京都議定書等) 7. エネルギー問題 8. 原子力政策(1) 9. 原子力政策(2) 10. 再生可能エネルギー(1) 11. 再生可能エネルギー(2) 12. 大気汚染・交通政策 13. 食と環境(グローバル化に伴う問題点) 14. まとめ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、平常点、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業(ガイダンス)に説明をします。	

09年度以降	ドイツ語圏現代社会・歴史特殊講義	担当者	客員教授 V. シュタンツェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Einigung Europas in Geschichte und Gegenwart Europa, wie wir es heute kennen, ist das Ergebnis einer langen Entwicklung nicht nur politischer Auseinandersetzungen, sondern auch im Denken der Europäer. Wir beginnen deshalb mit einem Blick weit zurück und werden im Lauf des Semesters schließlich beim heutigen Begriff „Europa“ und seiner geistigen wie politischen Bedeutung anlangen.</p> <p>Reader mit kurzen Texten von Malte Bachem: Karl der Große – Heiliger und Urahn, J.W. Goethe: Wilhelm Meisters Wanderjahre I,7, Rolf Hosfeld: Heinrich Heine. Die Erfindung des europäischen Intellektuellen, Jürgen Osterhammel: Das 19. Jahrhundert, Hans-Ulrich Wehler: Bismarck und der Imperialismus, Gunter Hofmann: Willy Brandt und die europäische Revolution, Helmut Kohl: Aus Sorge um Europa,</p>		<p><2015年度 秋学期> 詳細については初回授業時に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		初回授業時に説明します。	

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ 歴史 ） a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2015年は第二次世界大戦終結から70周年を迎える。歴史認識をめぐるっては、日本では8月の首相談話で今から注目されている。</p> <p>前半期は敗戦から40年たった1985年5月8日に当時の大統領Richard von Weizsäckerが国会で行った歴史的演説を改めてドイツ語で読み直し、この演説の意味を考えたい。この演説はすでに邦訳がある。授業では、ドイツ語の基本的確認を踏まえたうえで、原文での語彙や概念のもつ意味合い、現在の日本とドイツの状況への示唆などについても考えながら読み進めていきたい。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～14回 テキスト講読と討論</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ドイツ語テキストは配布。</p> <p>参考文献：ヴァイツゼッカー『荒野の40年』（永井訳）岩波、1986年、2009年。</p>		授業での参加度、期末テストの総合評価	

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ 歴史 ） b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではDeutsche Welle のWeb記事を読みながら、ドイツやヨーロッパの政治、社会、経済の問題を考えしていきます。ドイツ語の文献・資料としては毎回一つの記事を読むペースで進めていきます（長い記事は2回に分けて扱う）。</p> <p>Deutsche Welleはドイツの国外向け公共放送ですので、国内向けの記事よりもわかりやすく書かれています。現在進行形のテーマになりますので、必要に応じてその他の資料も取り上げたいと思います。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2～14回 テキスト講読と討論</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として Deutsche Welle の記事。適宜、他のメディアや雑誌記事、研究報告。</p>		授業での参加度、期末テストの総合評価	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) a	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、比較的平易なテキストを媒介にして、</p> <p>1. 文法知識の徹底と強化</p> <p>2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成を図ります。</p> <p>すなわち、学年が上がるうちに「自分はいつの間にか、同級生よりも後れをとってしまった。」とか、「改めて、きちんと頭で納得できる形で文法知識を習得したい。」等の思いを抱いている人に好適かと思えます。</p>		<p>テキストは1ページで1話完結の形式であり、大体授業1回(ないし2回)で1話をクリアするペースで進むと心得ておいて下さい。各課のテーマは以下のとおり。</p> <p>*第1回～第15回</p> <p>第1回：本授業の総合的ガイダンス。</p> <p>第2,3回：第1課 アルコール分解酵素の欠落について。</p> <p>第4,5回：第3課 コーヒーによる血中脂肪値の上昇。</p> <p>第6,7回：第5課 エイズの感染経路に対する誤解。</p> <p>第8,9回：第6課 コーラと尿結石。</p> <p>第10,11回：第7課 ニンニク等の鱗茎菜類の効用。</p> <p>第12,13回：第8課 塩分過剰摂取の習慣化について。</p> <p>第14回：予備日</p> <p>第15回：ペーパーテスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントにて配布します。第1回の講義時にサンプルを配布するので、実見の上、受講するか否かを決めて下さい。現地の新聞からの「家庭の医学」的なコラム記事を予定しています。また、出席に際しては独和辞典および文法に関する書籍(手持ちの教科書・参考書等)を毎回持参してください。</p>		<p>授業への出席は当然視したうえで、参加意欲を重視します。また、学期末にペーパーテストを実施します。なお正当な理由を報告しないまま、連続して3回以上欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意して下さい。何か事情がある場合には、なるべく早い時期に、授業終了後に個人的に相談に来て下さい。</p>	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) b	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期では、重点を冒頭に提示した「講義目的」の2.に移行させます。</p> <p>というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これをあたかも「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが肝要です。本授業ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」から脱却し、自然な日本語への「翻訳力」の涵養(かんよう)を図ります。</p>		<p>第1回～第15回(秋学期)</p> <p>第1,2回：第9課 目眩(めまい)、吐き気の示す危険信号。</p> <p>第3,4回：第10課 肝臓移植による血友病治療。</p> <p>第5,6回：第11課 高齢者に対する過剰投薬。</p> <p>第7,8回：第12課 騒音による血中ホルモン量の上昇。</p> <p>第9,10回：第13課 飲酒による血中マグネシウムの欠乏。</p> <p>第11,12回：第14課 マラソン等に起因するナトリウム欠乏。</p> <p>第13,14回：第15課 魚介類摂取の健康への好作用。</p> <p>第15回：ペーパーテスト。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) a	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahres. Zunächst werden Strukturmerkmale von Texten sowie das für Textanalysen erforderliche Fachvokabular erarbeitet. Mithilfe dieses theoretischen Rüstzeugs sollen dann diverse Texte (einzeln, in Gruppen und im Plenum) gelesen werden, die sich auf aktuelle gesellschaftliche Themen und Debatten (Flüchtlingsproblematik, Energiewende, Medienkrise, Hochschulstudium u.ä.) in den deutschsprachigen Ländern beziehen. Bei den Themen wird auf die jeweils aktuelle Lage Rücksicht zu nehmen sein, so dass kurzfristige Änderungen möglich sind. Themenvorschläge von Seiten der Teilnehmer sind jedoch jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ziel ist es, die Texte sowohl sprachlich als auch inhaltlich zu analysieren und die Lesekompetenz der Teilnehmer zu fördern. Außerdem sind Übungen vorgesehen, die dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entsprechen. Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt.</p>		<p>1 Kurs- und Themenvorstellung 2 Strukturmerkmale von Texten 3 Textanalyse I 4 Textanalyse II 5 Thema 1/1 6 Thema 1/2 7 Thema 2/1 8 Thema 2/2 9 Thema 3/1 10 Thema 3/2 11 Thema 4/1 12 Thema 4/2 13 Thema 5/1 14 Thema 5/2 15 Zusammenfassung</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.		Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht und einem Test, der dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entspricht.	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) b	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahres. Zunächst werden Strukturmerkmale von Texten sowie das für Textanalysen erforderliche Fachvokabular erarbeitet. Mithilfe dieses theoretischen Rüstzeugs sollen dann diverse Texte (einzeln, in Gruppen und im Plenum) gelesen werden, die sich auf aktuelle gesellschaftliche Themen und Debatten (Flüchtlingsproblematik, Energiewende, Medienkrise, Hochschulstudium u.ä.) in den deutschsprachigen Ländern beziehen. Da bei den Themen auf die jeweils aktuelle Lage Rücksicht zu nehmen ist, werden andere Texte als im Frühlingsemester zur Auswahl stehen. Kurzfristige Änderungen sind möglich. Themenvorschläge von Seiten der Teilnehmer sind jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeit berücksichtigt. Ziel ist es, die Texte sowohl sprachlich als auch inhaltlich zu analysieren und die Lesekompetenz der Teilnehmer zu fördern. Außerdem sind Übungen vorgesehen, die dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entsprechen. Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt.</p>		<p>1 Kurs- und Themenvorstellung 2 Strukturmerkmale von Texten 3 Textanalyse I 4 Textanalyse II 5 Thema 1/1 6 Thema 1/2 7 Thema 2/1 8 Thema 2/2 9 Thema 3/1 10 Thema 3/2 11 Thema 4/1 12 Thema 4/2 13 Thema 5/1 14 Thema 5/2 15 Zusammenfassung</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.		Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht und einem Test, der dem Prüfungsteil „Lesen“ der TestDAF-Prüfung entspricht.	

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ）b	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
初回授業時にて指示する。		初回授業時にて指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回授業時にて指示する。		初回授業時にて指示する。	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初に教育基本法、さらに学校教育法などが改定され、自由な教育研究が妨げられ、歴史がゆがめられようとしています。今のうちに日本の近・現代社会を描いた小説のドイツ語訳を読んで、現代国際社会の問題について考えたいと思います。</p>		<p>1. ヴィデオ観賞、文献コピー配布・分担 2～14. 以下順番に発表とその内容についての討論 15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
NOSAKA AKIYUKI: Das Grab der Leuchtkäfer.		全訳または要約と感想を最終レポート(5000字)として自己評価を付してポータルサイトを通じ定期試験前日までに提出してもらい、それに基づき評価します	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初に教育基本法、さらに学校教育法などが改定され、自由な教育研究が妨げられ、歴史がゆがめられようとしています。今のうちに日本の近・現代社会を描いた漫画のドイツ語訳を読んで、現代国際社会の問題について考えたいと思います。</p>		<p>1. ヴィデオ観賞、文献コピー配布・分担 2～14. 以下順番に発表とその内容についての討論 15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
NAKAZAWA KEIJI: BARFUSS DURCH HIROSHIMA.		要約と感想を最終レポート(5000字)として自己評価を付してポータルサイトを通じ定期試験前日までに提出してもらい、それに基づき評価します	

09年度以降	テキスト研究（現代社会・歴史）a	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後のドイツの歴史といえば、1990年までのドイツの分裂が大きな軸をなしています。ドイツが統一してから、今年には25周年を迎えます。分裂時代には「ベルリンの壁」は東西対立の象徴でした。この時代のドイツと日本との関係を中心に、様々な種類のテキストを読みながら、皆さんと一緒に考えていこうと思います。</p> <p>また、きちんとテキストを読み取ることも、ひとつの目的です。</p> <p>受講する学生の数にもよりますが、個人あるいは数人のグループで学期中に一度は小さな発表をしてもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と進め方 2. ドイツの分裂時代の特徴全般について（1） 3. ドイツの分裂時代の特徴全般について（2） 4. 東西ドイツの成立と日本（1） 5. 東西ドイツの成立と日本（2） 6. 西ドイツ（1） 7. 西ドイツ（2） 8. 西ドイツ（3） 9. 中間マトメ（学生、レポート提出） 10. 東ドイツ（1） 11. 東ドイツ（2） 12. 東西ドイツと日本 13. 統一への道 14. ドイツ統一と日本 15. 授業のまとめ（学生、レポート提出） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>さまざまな対象を取り上げるので、適切なコピーを配布する。</p>		<p>配布したコピーに関連して授業中に小さな発表をもらうので、それがひとつ。それにくわえて、2回のレポートを課す。その3つに基づいて評価する。</p>	

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ 歴史 ） a	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Unterricht wird anhand moderner Texte Grundwissen verschiedener Bereiche vermittelt		1 Einführung und Erklärung des Semesterablaufs 2 Text I 3 Text I 4 Text I 5 Text I 6 Text II 7 Text II 8 Text II 9 Text III 10 Text III 11 Text III 12 Text IV 13 Text IV 14 Text IV 15 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt		50% Aktive Teilnahme 50% Semesterendtest	

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ 歴史 ） b	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Unterricht wird anhand moderner Texte Grundwissen verschiedener Bereiche vermittelt		1 Einführung und Erklärung des Semesterablaufs 2 Text I 3 Text I 4 Text I 5 Text I 6 Text II 7 Text II 8 Text II 9 Text III 10 Text III 11 Text III 12 Text IV 13 Text IV 14 Text IV 15 Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden verteilt		50% Aktive Teilnahme 50% Semesterendtest	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) a	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の主題は、「自分を包み隠さず理解したい」、ハンナ・アーレントに学ぶ》、十九世紀の女性史、ロマン主義の隠れた主語＝主観の発見。</p> <p>近代化の波を起こした啓蒙主義は、我思う哲学と科学の発展に女性の立ち入る隙を与えなかった。しかし社会学と文学の領域では、女性問題と深い関係にあった。男性社会を助け補完するだけの仮初の妥協でない、自己言及を避けない・「我」を語り告白して憚らない。存在の「根源」に目覚めた女性の先駆的な活動を、テキスト研究の対象として取り上げる。春と秋の一年を通じて、アーレントの処女作『ラーヘル・ヴァルンハーゲン ロマン主義にみるドイツ系ユダヤ人女性の伝記』をパラフレーズする。死からの実存でない、脱自でもない、生誕は出自の人権的要件。立つ瀬が何処にも無いように見えても、働くモノの「根源」から思考すると、解き難い「感情と理性」の複雑に絡む自分の暗部が、見事なまでにすっきりと理解できる。いつでもどこからでも始められる、安心して仕切り直しができるようになる。「隠された伝統」への学びは、保証付きで、報われて余りがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：Die Person und Werke von Johanna Arendt in der Frühzeit (ビデオ使用) 2. 主題説明：Was ist ein Paria-wesen? In bezug auf Webers Definition 3. 作品紹介：Die erste Hälfte der „Rahel Varnhagen – Lebensgeschichte einer deutschen Jüdin aus der Romantik“. + 啓蒙主義の舞台と主演者、ベルリンの文学サロン 4. テキスト研究 (1)：Jüdin und Schlemihl 5. テキスト研究 (2)：Hinein in die Welt,durch Heirat; durch die Liebe 6. テキスト研究 (3)：Vorbei. Wie kann man weiterleben? 7. テキスト研究 (4)：Flucht in die Freunde.Die schöne Welt 8. テキスト研究 (5)：Zauber, Schönheit,Torheit 9. テキスト研究 (6)：Resultate. Der große Glücksfall 10. テキスト研究 (7)：Assimilation 11. 個人研究発表 (1)、申し込み順 12. 個人研究発表 (2)、申し込み順 13. グループ研究発表、主題別・届け出順 14. まとめ (1)「ラーヘル伝」前半の評価と解釈。全体討議 15. まとめ (2) 初期アーレントの思想と活動。ハイデガーの「実存」との近さと遠さ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hanna Arendt, „Rahel Varnhagen Lebens-geschichte einer deutschen Jüdin aus der Romantik“, Piper Verlag, München, Zürich, 1981, 2010.		授業参加度 (10%)、課題発表 (20%) とレポート提出 (70%)	

09年度以降	テキスト研究 (現代社会・歴史) b	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代化の波を起こした啓蒙主義は、我思う哲学と科学の発展に女性の立ち入る隙を与えなかった。しかし社会学と文学の領域では、女性問題と深い関係にあった。本講義の主題は、「自分を包み隠さず理解したい」、ハンナ・アーレントに学ぶ》、十九世紀の女性史、ロマン主義の隠れた主語＝主観の発見。男性社会を助け補完するだけの仮初の妥協でない、自己言及を避けない・「我」を語り告白して憚らない。存在の「根源」に目覚めた女性の先駆的な活動を、テキスト研究の対象として取り上げる。春と秋の一年を通じて、アーレントの処女作『ラーヘル・ヴァルンハーゲン ロマン主義にみるドイツ系ユダヤ人女性の伝記』をパラフレーズする。死からの実存でない、脱自でもない、生誕は出自の人権的要件。立つ瀬が何処にも無いように見えても、働くモノの「根源」から思考すると、解き難い「感情と理性」の複雑に絡む自分の暗部が、見事なまでにすっきりと理解できる。いつでもどこからでも始められる、安心して仕切り直しができるようになる。「隠された伝統」への学びは、保証付きで、報われて余りがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：Die Person und Werke von Johanna Arendt in der späteren Zeit (ビデオ) 2. 主題説明：Was ist ein politisch aktives Wesen für Frauen? 3. 作品紹介：Die zweite Hälfte von der „Rahel Varnhagen – Lebensgeschichte einer deutschen Jüdin aus der Romantik“. + 啓蒙主義の壁とロマン主義の夢 4. テキスト研究 (8)：Tag und Nacht 5. テキスト研究 (9)：Der Bettler am Wege 6. テキスト研究 (10)：Bankrott einer Freundschaft 7. テキスト研究 (11)：Bürgerliche Verbesserung. Geschichte einer Karriere 8. テキスト研究 (12)：Zwischen Paria und Parvenu 9. テキスト研究 (13)：Aus dem Judentum kommt man nicht heraus 10. テキスト研究 (14)：Aus Rahels Briefen und Tagebüchern 11. 個人研究発表 (1)、申し込み順 12. 個人研究発表 (2)、申し込み順 13. グループ研究発表、主題別・届け出順 14. まとめ (1)、「ラーヘル伝」後半の評価と解釈。全体討議。 15. まとめ (2)、アーレント晩年の政治思想と「活動的生」(vita activa)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hanna Arendt, „Ich will verstehen. Selbstauskünfte zu Leben und Werk“, Grin Verlag, 2005.; „Ich selber wirken? Nein, ich will verstehen“, 2010.		授業参加度 (10%)、課題発表 (20%) とレポート提出 (70%)	

09年度以降	テキスト特殊研究（現代社会・歴史）b	担当者	客員教授 V. シュタンツェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Deutschsprachiger literarischer Humor in der Nachfolge Tucholskys Der politische Humor Deutschlands, wie er durch Namen wie Ludwig Thoma, Simplicissimus, Kurt Tucholsky und Erich Kästner gekennzeichnet ist, hat sich im Lauf der Jahrzehnte nach dem Weltkrieg an die gesellschaftlichen Veränderungen Deutschlands angepasst und seinen Charakter gewandelt. Durch ihn als Brille lässt sich auch Deutschland heute besser – und unterhaltsamer – verstehen. Das wollen wir versuchen – um zum Semesterende selbstständig über solche Texte, Bilder und Aufzeichnungen lachen zu können.</p> <p>Reader mit kurzen Texten, Hörübungen und Zeichnungen von Dieter Hildebrandt: Was bleibt mir übrig, Hans Traxler: Die Wahrheit über Hänsel und Gretel, Wolfgang Neuss: Gesammelte Werke, Chlodwig Poth: Mein progressiver Alltag, Eckhard Henscheid: Die Vollidioten, F.W. Bernstein: Reimweh, Gerhard Polt: Toleranz, Auswahl aus „Pardon“ sowie „titanic“</p>		<p><2015年度 秋学期> 詳細については初回授業時に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		初回授業時に説明します。	

交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要：</p> <p>本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港、および国際航空法 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社）</p> <p>（注）受講生は、事前に予習しておくこと。</p>		<p>ディスカッションなど講義参加度：50%</p> <p>最終試験：50%</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について理解を深めることを目指す。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境 6、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 7、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 8、パッケージツアー③：商品企画における「知識」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、テーマ化された空間の将来 14、観光化する社会と「ツーリズムの終焉」？ 15、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は食の文化を通じて「グローバリゼーション」について考えることを目的とします。</p> <p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめと試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）。	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。</p> <p>ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」 2 メディアの源流①：メディアとしての新約聖書 3 メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4 近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシー 5 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6 近代とメディア③：「日刊新聞」以前、以後 7 近代とメディア④：ニューヨークタイムズの時代 8 近代日本のトランスナショナル・メディア 9 20世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」 10 20世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11 20世紀とメディア③：戦争報道と”Media War” 12 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13 国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」 14 国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディア とわたしたち 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（戦争の記憶と表象—オーストラリアと日本、その1） 授業の導入部分では、4月25日のANZAC DAYを概観する。 Australia and New Zealand Army Corpsが、第1次世界大戦のはじめ、トルコのガリポリで上陸作戦を開始した記念日だが、100周年にあたる今年は、愛国心の過度の表出が懸念されている。 http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/ その後の授業では、検討の対象を日本に移し、「特攻」を賛美するような近年の風潮や、兵隊たちと性行為を強要させられていた女性たちの「強制連行」がなかったと主張する政府やメディアの戦略を考える。この授業の目的は、沖縄での強制集団死や、朝鮮人、中国人強制連行・労働などを含め、1931年から45年までの戦争が日本でどのように記憶され、文化的に表象されてきたかを問題にし、受講生と共にディスカッションしていくことにある。 初回（何らかの授業で参加できなかった人は2回目）の授業に、上記の授業目的について各自が考えるところを、500～1000字程度に記し、持参すること（初回レポートとして評価の対象になる）。 土日などを利用して、「遊就館」や「女たちの戦争と平和資料館」など、学外の施設を見学することが、履修の前提条件となる。</p>		<p>4/9 1. イントロダクション 4/16 2. ANZAC 4/23 3. 学外見学（授業振替） 4/30 4. ANZAC(ディスカッション) 5/7 5. 『月光の夏』 5/14 6. 『月光の夏』。 5/21 7. 「慰安婦」（1） 5/28 8. 「慰安婦」（2） 6/6 9. 「沖縄・集団死」（1） 6/13 10. 「沖縄・集団死」（2） 6/20 11. 「強制連行・労働」（1） 6/27 12. 「強制連行・労働」（2） 7/2 13. 『ゆきゆきて神軍』 7/9 14. 靖国神社みたままつり 7/16 15. まとめのディスカッション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>新書版の本を何冊か読んでもらう予定。Norma Field, <u>In the Realm of a Dying Emperor</u> (1993)からは抜粋を使用するが、日本語で読むことも可能（共に本学図書館所蔵）。その他、英文のものを含め、新聞・雑誌記事など。詳しくは初回の授業で説明する。</p>		<p>学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポートを評価の対象とする。また、十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。</p>	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。</p> <p>グローバルとローカルなものに対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>(参考文献) W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバーグホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か?』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO等で各自購入してください</p> <p>(参考文献) 上欄を参照。</p>		<p>期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「樂園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. 少数民族と観光—タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. ダーク・ツーリズムの現状—広島および西アフリカの事例から 15. まとめ <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義では、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. (ディスカッション) テーマ：イベント (各種イベント、大学祭等)の意義と役割 8. 古代オリンピック 9. オリンピックの歴史・意義・役割について 10. ビジネスの視点からのオリンピック① 11. ビジネスの視点からのオリンピック② 12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 13. " ② 14. " ③ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		<ul style="list-style-type: none"> ・受講姿勢、小テスト、講義参加度：50% ・プレゼンテーションとレポート：50% 	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、世界がグローバル化する今日その重要性がさらに高まっている。戦後の我が国経済は主にモノづくり産業が牽引してきており、ツーリズム政策は必ずしも充分ではなかった。このような経緯を踏まえながら多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して学習を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 世界の動き、日本の動き 3. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（観光立国など） 4. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（インバウンドツーリズムの重要性など） 5. ツーリズム政策の変遷（鎖国から現代まで） 6. ツーリズムにおける我が国の課題（国民文化等） 7. ディスカッション① 8. 世界のツーリズム政策①（シンガポール） 9. ディスカッション② 10. 世界のツーリズム政策②（スイス） 11. 世界のツーリズム政策③（フランス） 12. 多様なツーリズム政策（世界遺産、イスラム世界の拡大、ニューツーリズム） 13. 多様なツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、小テスト、講義参加度：50% 最終試験：50%	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ、ツーリズムと文化の動的な関係について考察する。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、観光みやげとモノの移動／消費 3、近代における観光みやげ 4、「民芸品」へのまなざし 5、観光みやげと真正性 6、観光みやげのギフト性 7、観光みやげの儀礼的倒錯性 8、観光みやげと「ものがたり」 9、民芸品としてのアジア雑貨 10、ベトナム雑貨がつくるルート 11、ベトナム雑貨観光とその生産地 12、旅するマトリョーシカ① 13、旅するマトリョーシカ② 14、おみやげが媒介する文化 15、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（90%）、学期中宿題（10%）。</p>	

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （写真とツーリズムの交流文化史））	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（写真とツーリズムの交流文化史）</p> <p>旅するとき、なぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆に SNS へアップするために旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」とは、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラースン、2011=2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。そのためこの講義では、国際的な研究成果を日本の社会文脈に導入し、出席者とともに「自撮り (Selfie)」や「絶景」や「SNS フォト」など、トランスナショナルな社会現象を考えます。</p> <p>講義の目的は、写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、「撮る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探ることで、近代社会におけるイメージとイメージネーションの諸問題を考えることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：観光写真と写真観光 2 写真の歴史①：遠近法と写真術 3 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4 写真の歴史③：戦後日本の写真産業と家族写真 5 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7 海外の「まなざし」③：トランスナショナル・イメージとツーリズム 8 「撮る」の政治学①：バルト、ソントグ、多木の場合 9 「撮る」の政治学②：表現としての写真 10 「撮る」の政治学③：「動く画」の発明 11 「撮る」の政治学④：映画の「まなざし」 12 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13 写真とツーリズム②：「自撮り」を考える 14 写真とツーリズム③：SNS と写真 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要： 旅行産業のビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館ビジネスを中心に、経営及び運営方法、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動き、将来について学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイントを使って行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 3. 旅行産業の現状と課題① 4. 旅行産業の現状と課題② 5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① 6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② 7. リゾートホテル・ビジネス 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空産業の最近の動き 10. 航空産業の将来 11. プレゼンテーション① 12. プレゼンテーション② 13. プレゼンテーション③ 14. プレゼンテーション④ 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、講義参加度：50% プレゼンテーションとレポート：50%	

13年度以降 09～12年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」のシンボルになり、あるいは「観光くにつくり（観光立国）」の理念にもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域アイデンティティの創造などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を造り替えたりします。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性と現在形を検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2 グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3 グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「結婚」 4 グアムから考える③：「日本人の楽園」と米軍基地 5 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6 ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7 ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8 ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10 メディア・ツーリズム①：観光地のメディア戦略 11 メディア・ツーリズム②：映画観光の功罪 12 メディア・ツーリズム③：「日本」の観光化 13 理論編③：複製技術時代の観光 14 理論編④：メディア・ツーリズムの現在形 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

13年度以降 09～12年度	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>地域が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々間のコミュニケーションの総和」として捉えます。</p> <p>取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章） 3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2章） 4. 生ごみリサイクルにみる町づくりの制度構築：山形の事例（3章） 5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫の事例（4章） 6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグランを例として（10章） 8. スラムとコミュニティ開発：ブラジルの事例（ビデオ） 9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根の事例（7章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援の事例（11章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章） 15. まとめ、試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト）</p> <p>北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版</p> <p>※DUO等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 5. 環境主義の商品化—エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光—北米イヌイットの事例 10. 先住民と開発—開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として 15. まとめ <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座（グローバリゼーションへの多面的・学際的アプローチー歴史・現状・展望 1）	担当者	コーディネーター 水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバリゼーション」という現象が人口に膾炙して、はや久しい。グローバル化がいつ始まったかという問題自体論争を呼ぶテーマであって明確な合意は存在しないが、冷戦が終焉した 1990 年代以降、いわゆる、ヒト、モノ、カネ、情報のトランスナショナルな移動が加速した。グローバリゼーションが今後 21 世紀の最も顕著な潮流になるであろうことは間違いない。</p> <p>本講座は、今日最も頻繁に耳にする概念でありながら、時々刻々と変化するその特性ゆえに実体の把握が容易でないグローバリゼーションについて、様々な学問分野の知見を総合的に提示することで、その普遍性（世界規模の現象ととらえるマクロ的視点）と多元性・特殊性（地域的独自性、進展速度や現出問題の違いなど）を理解することを目的とする。政治、経済、安全保障、環境、コミュニケーション、文化、文学、言語、民族、芸術、宗教など、多様な視点からグローバリゼーションの動態に迫る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 水本義彦 講座の目的・概要 2 秋野有紀 パブリック・ディプロマシー 3 秋野有紀 ドイツの対外文化政策 4 佐藤唯行 グローバル化するユダヤ・ロビー：第一次オバマ政権発足 100 日目の総括 5 小林哲也 グローバリゼーション賛成・反対：成長と格差の世界経済を読み解く 6 高木綾 グローバル経済がもたらす諸問題：対内直接投資と国家安全保障の問題 7 廣田愛理 グローバリゼーションとフランス 8 矢羽々崇 グローバル社会におけるベートーヴェンの『第九』：自由と民主化のメッセージ 9 鈴木英一 記号論理学の時間表示と英語の「時制の一致」 10 湯浅博雄 グローバリゼーションと言葉・翻訳 11 永野隆行 イギリス帝国とグローバリゼーション 12 岡村りら 環境問題に対する取り組み 13 毛受敏浩 人口減少下の日本の選択：移民受け入れは是非か？ 14 上田浩二 グローバル化の中の日独関係 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
統一テキストとしては、特に指定しない。		教員の指示に基づき各回小テストを実施し、その評価を集計して最終評価を決する。	

09年度以降	総合講座（グローバリゼーションへの多面的・学際的アプローチー歴史・現状・展望 2）	担当者	コーディネーター 水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバリゼーション」という現象が人口に膾炙して、はや久しい。グローバル化がいつ始まったかという問題自体論争を呼ぶテーマであって明確な合意は存在しないが、冷戦が終焉した 1990 年代以降、いわゆる、ヒト、モノ、カネ、情報のトランスナショナルな移動が加速した。グローバリゼーションが今後 21 世紀の最も顕著な潮流になるであろうことは間違いない。</p> <p>本講座は、今日最も頻繁に耳にする概念でありながら、時々刻々と変化するその特性ゆえに実体の把握が容易でないグローバリゼーションについて、様々な学問分野の知見を総合的に提示することで、その普遍性（世界規模の現象ととらえるマクロ的視点）と多元性・特殊性（地域的独自性、進展速度や現出問題の違いなど）を理解することを目的とする。政治、経済、安全保障、環境、コミュニケーション、文化、文学、言語、民族、芸術、宗教など、多様な視点からグローバリゼーションの動態に迫る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 佐野康子 グローバリゼーションの加速化：アフリカにおける適者生存の原則 2 菊池英博 グローバリゼーションとグローバリズムの違い：日本で進む新自由主義革命 3 高木綾 グローバル経済がもたらす諸問題：グローバル・インバランスの問題 4 片山亜紀 国際社会と妊娠中絶 5 E. 本橋 Strangers Among Us: Myths, Facts & Realities of Immigration Around The World And In Japan 6 上野直子 カリブ：西欧近代史の「背中の臍」 7 上野直子 移動するカリブ 8 西田恒夫 グローバリゼーションと国際機関の役割 9 工藤達也 宗教としての資本主義 10 山本淳 ドイツ・ポップ/ロックの変遷：言語・時代・社会のはざままで 11 金井満 世界のなかのドイツ車 12 高橋雄一郎 グローバル化と人の移動：巨大な墓場となる地中海 13 東郷公德 地球化時代の多文化主義 14 鈴木隆 都市の商業形態と生活中心地の変化 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
統一テキストとしては、特に指定しない。		教員の指示に基づき各回小テストを実施し、その評価を集計して最終評価を決する。	

09年度以降	総合講座（西洋音楽史1）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>以下のような流れでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. ヨーロッパの古代の音楽 4. ヨーロッパの中世の音楽（1） 5. ヨーロッパの中世の音楽（2） 6. ルネサンス音楽（1） 7. ルネサンス音楽（2） 8. ルネサンス音楽（3） 9. バロック音楽（1） 10. バロック音楽（2） 11. バロック音楽（3） 12. バロック音楽（4） 13. バロック音楽（5） 14. まとめ 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、授業中に適宜紹介します。		10回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。筆記試験の結果に平常点を加味して評価します。	

09年度以降	総合講座（西洋音楽史2）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を知っていることを前提として話しますので、なるべく春学期から受講してください。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>以下のような流れでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 古典派の音楽（1） 3. 古典派の音楽（2） 4. 古典派の音楽（3） 5. 古典派の音楽（4） 6. 19世紀の音楽（1） 7. 19世紀の音楽（2） 8. 19世紀の音楽（3） 9. 19世紀の音楽（4） 10. 19世紀の音楽（5） 11. クリスマスの音楽 12. 20世紀の音楽（1） 13. 20世紀の音楽（2） 14. まとめ 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、授業中に適宜紹介します。		10回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。筆記試験の結果に平常点を加味して評価します。	

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. 情報のデジタル化 3. オペレーティングシステム 4. プログラミング言語入門 5. データ構造入門 6. アルゴリズム入門 7. ハードウェアとは 8. 情報検索と言語処理 9. 形態素解析と構文解析 10. 自然言語処理の応用 11. 質問応答システム 12. 対話システムと言語資源 13. 総合演習 1 14. 総合演習 2 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示する参考文献を使用します。		レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (言語情報処理 1)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 Ia では、「言語情報とは何か?」、「コーパス (=言語データ)とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題 (Research question(s)) をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書 (下記参照) に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。</p> <p>従って、品詞を英語で言える、センテンス構造を分析できるなど、基本的な言語学の知識を必要とします。また、「コンピューターの使い方を学習する」授業ではありませんので、その点も注意してください。</p> <p>成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。</p> <p>言語情報 Ia と Ib では、Iaの方が言語学的内容です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】 第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 3. 第3章「さまざまなコーパス」 4. 第5章「コーパス検索の技術」 第6章「コーパス頻度の処理」 5. 第7章「コーパスと語彙」(1) 6. 第7章「コーパスと語彙」(2) 7. 第8章「コーパスと語法」(1) 8. 第8章「コーパスと語法」(2) 9. 第9章「コーパスと文法」(1) 10. 第9章「コーパスと文法」(2) 11. プレゼンテーション準備 (1): RQを検討 12. プレゼンテーション準備 (2): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (3): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用テキスト</p> <p>『ベーシックコーパス言語学』 (石川慎一郎著 ひつじ書房)</p>		<p>毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)</p>	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (言語情報処理 2)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 Ib では、「日本人英語学習者のコーパス (=言語データ)」を扱います。究極的な研究課題 (Research question) は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する (あるいはしない) 文法項目、誤り (error) などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおこなってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、<u>英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人</u>に向いている内容といえます。</p> <p>授業では、学習者コーパスを構築し、分析する演習が中心になります。必ずしも言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、コンピューターの作業に慣れていることが望ましいです。</p> <p>成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】 学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集 (1) 5. 学習者データの収集 (2) 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備 (1): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (2): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用せず</p>		<p>毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)</p>	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過等) で総合評価する。</p>	

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情勢的影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.期末試験と振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二 (2000) . 『複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他 (2010) . 『社会心理学』 有斐閣</p>		<p>中間レポート 30%, 期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

09年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動、対人行動としてのコミュニケーション 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8.信頼社会と安心社会 9.社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10.社会的感情(2)：表情と感情 11.社会的感情(3)：生死を分ける感情 12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル 13.健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防のための社会心理学の挑戦 14.期末試験と振り返り 15.社会心理学の未来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二 (2000) . 『複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間』 有斐閣 池田謙一 他 (2010) . 『社会心理学』 有斐閣</p>		<p>中間レポート 30%, 期末試験 70%で評価する。 なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

シラバス ドイツ語学科

2015年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	